

看 護 部

看護部の理念と方針

1. 看護部の理念と方針

【看護部の理念】

私たちは、患者さんの立場に立った思いやりのある暖かい看護を行います。

【看護部の方針】

1. 看護の役割と責任を自覚し、患者さんの個別性と安全を大切にした看護を実践します。
2. 専門職業人として知識・技術の向上を図ります。
3. 研究的視点で臨床看護の質の向上を図ります。
4. 患者さんの生活の質改善に向けて、地域医療・保健機関との連携を図ります。
5. 思いやりをもち、心をこめた看護を行います。

2. 平成30年度 看護部運営方針

1. 良質な看護サービスの提供

- 1) 質の高い看護の提供
- 2) 必要な人員と体制の確保
- 3) チーム医療の推進

2. 看護業務の改善及び推進

- 1) 業務効率の向上
- 2) 外来看護の充実

3. 経営への参画

- 1) 効率的な病床管理
- 2) 施設基準の維持と上位取得への努力
- 3) 地域医療構想への積極的参加

4. 人材育成

- 1) 教育体制の充実
- 2) 実習指導体制の充実
- 3) 看護師のキャリアアップの支援
- 4) 専門性の高い看護の発信を通して、学び育て合う

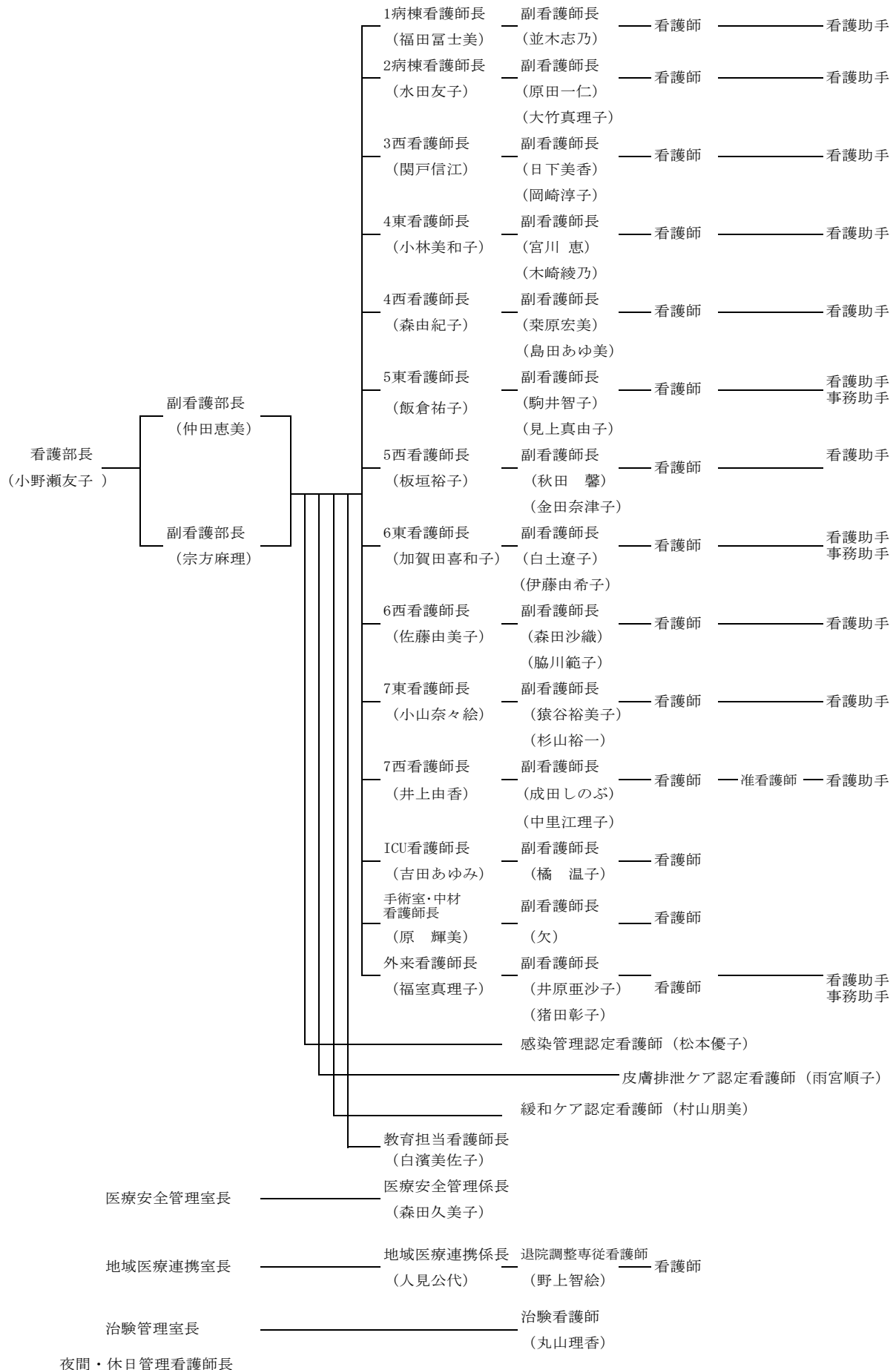
平成30年度看護部目標 評価

看護部運営方針	具体的内容	指標	目標項目	30年度実績	担当者		
1 良質な看護サービスの提供	(1) 呼吸器疾患看護を軸にした看護力の強化 個別性のある看護を実践する。 (2) 必要に応じた看護手順の整備と改訂を行う。 (3) 医療安全対策を徹底する。 (4) 標準予防策を遵守し、院内感染を防止する。 (5) 褥瘡予防対策・治療を適切に実践する。 (6) 認知機能に障害のある患者への看護介入の見直し (7) 病院機能評価3rdG ver.2 (回復期リハ) 受審準備	看護手順活用度 新規作成数 見直し数 インシデント関係の件数・内容、 研修会参加率・院内感染件数 褥瘡発生率・改善率 マニュアル作成実績	患者満足度調査結果 活用項目数 3b以上報告件数 ヒヤリハット件数 CRBSI発生件数 褥瘡発生率 認知症マニュアル作成 認定	入院55位 外来47位 177項目↑ 20項目 1482件↑ 9件↓ 0.91%↓ 認定 認定	業務委員会・看護単位 リスク委員会・看護単位 ICT委員会・看護単位 褥瘡対策委員会・看護単位 業務認定/研修了者 3西 医療安全 他 看護単位		
	2) 必要な人員と体制の確保	(1) 看護職員の確保定着 (2) 結核病棟看護体制の見直し (3) パートナーシップの推進 (4) 新採用者の支援体制を強化する (5) 夜勤体制の強化と見直し (6) 年休の取得推進	認定を受ける 必要人員確保・人員配置状況 支援状況	離職率 新採用者離職率 マニュアル見直し実施 超過勤務時間 年休取得数	服薬支援計画書見直し チェックリスト作成 結核病棟 教育・看護単位 看護部長室・看護単位 看護単位 看護単位		
		3) チーム医療の推進	(1) 医療安全、感染管理、褥瘡対策、緩和ケア、NST、RSTの看護師活動支援 (2) 認知症ケアチームのあり方検討 (3) 診療録・看護記録への適切な記載	リンクナースの目標達成度 活動状況と成果の評価 スクリーニングの検討 部署ごとの連携の状況 認知症ケア（看護）チームの活動案 質の監査（重点項目） 必要度B項目監査	各自標値の達成 中間見直しの実施 スクリーニング項目 認知症自立度 29%↓ 加算1準備 チームラウンド開始 記載率 監査評価 薬剤関連チャット件数 内服：431件↑ 注射：133件↑	各委員会・WG 医療安全 委員会・看護単位 委員会・看護単位 委員会・看護単位 委員会・看護単位 委員会・看護単位	
			1) 業務効率の向上	(1) 病棟薬剤師との連携強化 (2) 業務量に応じた部署横断的な応援体制の推進	ICU・OP病棟間の調整 化学療法 放射線療法有害事象説明 応援体制の実績・評価 実施拡大	対応件数（診療報酬） がん患者指導管理料2 呼吸器看護外来数 在宅指導料件数 緩和外来同席件数 ストマ外来件数 外来化学療法件数 放射線治療件数	病棟 看護部長室 外来 病棟 看護部長室 認定看護師 外来 地域連携 WOC がん化学療法CN 外来 外来
				2) 外来看護の充実	(1) 外来看護の充実と待ち時間短縮 (2) 患者サポート体制の強化 在宅支援・入院前説明 (3) 看護師外来の充実 （呼吸器・緩和・ストマ・ がん化学療法、放射線治療、退院調整への連携）		227件 73件↑ 25件↑ 215件↓ 199件 882件↑ 3250件
		2 看護業務の改善及び推進					

看護部運営方針	具体的内容	指標	目標項目	30年度実績	担当者		
3 経営への参画	1) 効率的な病床管理 (1) 病棟間の連携による、病床利用率向上 (2) 緩和ケア病棟のベッドコントロール方法の見直し (3) リンクナーズの活用による退院調整の推進 (1) 看護職配置等の要件を満たした施設基準の維持 (2) 診療報酬改定を踏まえた体制整備 (3) 障害病棟の士位基準取得への努力 (1) 急性期病院、東京都がん協カ病院としての役割発揮に寄与する (2) 緩和病棟増床を視野に入れた、病床運用 地域との連携強化 (1) ACTYナースver.2レベルIII～IV対象のプログラムレベル認定までの計画と実施・評価 (2) 組織価値を高められる看護管理者の育成 管理者能力開発プログラム (CREATE) 活用	管理指標に基づいた自部署分析 病床利用率 在宅復帰率 地域との連携 看護必要度5 3西病棟上位基準維持 月ごとの検証 認知症ケア加算取得 他 緩和地域連携カンファレンス参加 緩和病棟在宅移行 研修評価 達成状況 開催数・時間・実績・評価 幹部看護師受講者数・合格率 副看護師長の取り組み発表 新任研修の実施 (師長) 管理研修受講者数 看護研究実績 学生評価 実習指導者の育成 学校教員との連携強化 活動の達成度 研修受講・更新支援 専門コース研修企画運営 (1) 「呼吸疾患看護研修」の開催 院外向け2日間研修 対象：国立病院機構(関信)看護職員及び地域の施設に勤務する看護職員	8/1経営分析 80.30% 93.80% 1709 24.70% 回リハ1取得 前年以上 加算2取得 実施 17.10% 87.70% レベル認定数 各研修評価 合格者数/受講者数 (合格率) 6グループ 副師長の人材教育プログラム作成 2名 セカンド：1名 サード：1名 取り組み4題 院外発表8題 学生3.8 看護3.6 4名 (51名) 学生3.7 看護3.5 実施 12/12、13開催 開催評価	看護部長室 看護単位 3西 看護単位 地域連携 看護単位 認知症CN 緩和CN 地域連携 1病棟 緩和CN 地域連携 教育委員会 看護単位			
					4 人材育成	1) 教育体制の充実 (1) 認定看護師の活動支援 (2) 次期認定看護師の育成：受講しやすい環境整備 (1) 「呼吸疾患看護研修」の開催 院外向け2日間研修 対象：国立病院機構(関信)看護職員及び地域の施設に勤務する看護職員	認定看護師会 認定看護師会 看護部長室 教育担当師長 看護師長 認定看護師

IV. 看護部の組織・委員会活動

1. 看護部組織図（平成30年7月1日現在）



2. 看護部会議・委員会一覧

会議名	構成員	審議内容	開催日
看護師長会議	看護部長 副看護部長 看護師長	1 病院及び看護部の管理運営に関すること 2 看護管理事項の討議及び協議 3 看護職員の教育、研究に関すること 4 各委員会報告及び委員会への提案事項 5 他部門との調整に関すること 6 その他必要な事項	隔週水曜日 15:00～16:30
副看護師長会議	副看護部長 教育担当看護師長 医療安全管理係長 副看護師長	1 看護師長の補佐業務に関すること 2 看護管理に関すること 3 看護職員等の教育・研究に関すること 4 各委員会報告及び委員会への提案事項	第2火曜日 15:30～17:00
看護助手会議	副看護部長 看護師長 看護助手	1 病院及び看護部の運営に関すること 2 身の回りの世話・食事の世話・環境整備等の看護助手業務について 検討見直し 3 医療安全、院内感染防止対策、接遇、個人情報、守秘義務、 個人情報保護、医療における倫理的配慮に関すること	5月・11月 第3木曜日 13:30～14:00
教育委員会	副看護部長 看護師長 副看護師長	1 看護職員の研修の企画・運営・評価に関すること 2 看護職員の実践能力の向上を支援すること 3 集合教育と機会教育の連携の推進 4 その他、看護職員の教育に関すること	第2・4木曜日 13:30～14:30
業務改善委員会	副看護部長 看護師長 副看護師長 看護師	1 看護業務の検討および改善に関すること 2 看護基準・手順、看護業務手順、検査手順等の見直しと作成 3 その他、看護業務に関すること	第3火曜日 13:30～14:30
看護記録委員会	副看護部長 看護師長 副看護師長 看護師	1 看護記録内容、看護記録監査に関することの審議 2 看護記録記載基準の見直し及び改訂 3 院内略語の修正と追加 4 その他、看護記録に関すること	第4金曜日 13:30～14:30
リスクマネジメント委員会	副看護部長 看護師長 副看護師長 看護師	1 各看護単位における医療安全管理マニュアルに関する情報収集及び 医療安全管理マニュアル遵守の推進 2 医療安全作業部会と連携 3 ヒヤリ・ハットの分析及び留意事項の啓蒙活動 4 職員の医療安全研修会に協力 5 その他、医療安全管理に関すること	第4火曜日 13:30～14:30
ICT委員会	副看護部長 看護師長 副看護師長 看護師	1 各看護単位における院内感染防止対策の実施状況把握 2 各看護単位における院内感染発生状況の把握と報告 3 衛生管理の周知徹底を図る等、感染制御部会と連携 4 院内感染防止対策マニュアルの周知徹底 5 職員教育、情報収集及び情報の伝達	第2月曜日 13:30～14:30
看護部褥瘡対策委員会	副看護部長 看護師長 副看護師長 看護師	1 各看護単位における褥瘡発生患者・ハシリ患者の把握と報告 2 褥瘡予防対策、褥瘡予防用具の検討 3 各看護単位において褥瘡発生防止対策の実施、及び発生患者に対する 効果的なケアの指導 4 褥瘡フローシートの検討・見直し 5 褥瘡患者の回診に対応等、褥瘡対策部会と連携	奇数月 第3木曜日 13:30～14:30
実習指導者委員会	副看護部長 看護師長 副看護師長 看護師	1 実習内容及び、実習指導に関する事項 2 実習指導者の資質向上に関する事項 3 各看護大学、看護専門学校と実習報告会の開催、指導体制と指導効果の評価、 実習体制の整備	奇数月 第1火曜日 13:30～14:30
認定看護師(等)会議	看護部長 看護師 認定看護師 退院調整看護師	1 認定看護師(等)の活動目標と評価に関すること 2 認定看護師(等)の活動の推進に関すること 3 看護職員の教育、研究に関すること 4 認定看護師間の情報の共有と連携に関すること	隔月 第2火曜日 14:00～15:00
退院支援リンクナース会	副看護部長 地域医療連携係長 退院調整看護師 看護師	1 各看護単位における退院支援・調整の実施状況の把握、評価 2 各看護単位における退院支援・調整マニュアルにもとづく活動の推進 3 各看護単位において退院支援・調整に関する知識の伝達 4 その他、退院支援・調整に関する事項	隔月 第3水曜日 13:30～14:30

1 病棟(緩和ケア)

看護師長 福田 富士美

1. 病棟概要

1) 疾患・治療の概要

(1) 主な疾患

呼吸器系の癌が全体の半数以上を占めている。

(2) 主な治療

疼痛、嘔気、不安等に対する緩和療法

2. 看護体制

1) 配置数: 看護師長1名 副看護師長1名 看護師16名 非常勤看護助手1名

2) 看護提供体制: 固定チーム継続受け持ち制

3. 病棟運営状況

1) 運用病床数: 20 床

	平成 30 年度	前年度比
平均在院患者数(名)	17.5	+0.5
平均在院日数(日)	31.2	-21.3
平均病床利用率(%)	87.5	-2.5

2) 平均在宅復帰率 16.8%

緩和ケア病棟入院料1を取得している。在宅への退院増加に伴い、在院期間が短縮傾向にある。緩和ケア認定看護師や退院調整看護師と共に、適切な時期に入院・退院ができるよう協力し取り組んでいる。

4. 看護の活動内容

患者個々の意思を尊重し、満足度の高いケアを提供するため、チームでのカンファレンスを充実させている。さらに家族の思いを大切にしたい関わりができるよう努めた。他部門との合同カンファレンスを週1回開催し、新入院患者の情報伝達、患者個々の問題解決に向けて検討した。

他施設との連携として、西東京ホスピス・緩和ケア病棟連絡会の参加(年2回)、清瀬市ホスピス緩和ケア週間の活動に参加している。

5. 教育

1) 病棟における勉強会(1回/月)

緩和ケアの実践に結びつく内容で毎月開催(事例検討の緩和カフェ、エンゼルケア、麻薬の使用、退院支援について等)

2) その他

ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム 3 名、退院調整看護師研修 1 名が参加

6. その他

ボランティア受け入れ(3 名が各 1 回/週)として、患者訪問、散歩等の気分転換活動、花壇等の環境整備活動実施。病棟レクリエーション(ミニコンサート等)6 回開催した。

2 病棟 (神経内科)

看護師長 小船 智恵

1. 病棟概要

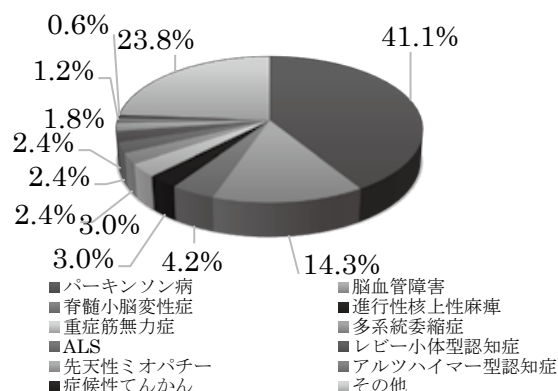
1) 疾患・検査・治療の特徴

(1) 主な疾患

パーキンソン病 (41.1%) と脳血管障害 (14.3%) とで全体の半数以上を占める。

(2) 主な検査: CT、MRI、ルンバール、筋電図、脳波

(3) 治療: 薬物療法、リハビリテーション (OT、PT、ST)



2) 看護の特徴

- ・長期療養を必要とする患者が多いため、患者・家族の不安を軽減し、身体的・精神的に安楽が図れるよう、支援を行っている。
- ・ADL が低下し入院して来る患者が殆どのため、リハビリスタッフと連携を密に図り、リハビリに対する意欲向上が図れ、ADL の向上や残存機能が維持できるように働きかけている。
- ・社会・家庭への復帰や在宅療養に向け、入院初期カンファレンス、退院前カンファレンスを行い、入院初期より他部門と連携を図り、退院後の生活に向けた支援を行っている。
- ・患者の認知力・活動状況を把握し、患者に合わせた看護ケアの提供を行っている。

2. 看護体制

- 1) 配置数: 看護師長 1 名、副看護師長 2 名、看護師 18 名、非常勤看護師 1 名、非常勤看護助手 3 名
- 2) 看護提供体制: 固定チーム 継続受け持ち方式

3. 病棟運営状況

1) 運用病床数: 40 床

	平成 30 年度	前年度比
平均在院患者数 (名)	37.5	-1.0
平均在院日数 (日)	76.6	-27.8
平均病床利用率 (%)	93.7	-2.5

4. 看護の活動内容

- 1) 担送患者が 6 割、看護必要度 B 得点 3 点以上が 9 割を占め、褥瘡発生のリスク患者が多い。その為、入院時より週 1 回、患者のリスクアセスメントを行ない、患者の状態に合わせた褥瘡予防ケアを実施した。その結果、褥瘡発生率は 0.75% と低く抑えることが出来た。

5. 教育

- 1) 病棟勉強会: 講師は医師・看護師・歯科衛生士・理学療法士等で、年 7 回実施した。
- 2) 「重症度、医療・看護必要度評価者研修」4 名、「看護のための認知症対応力向上研修」2 名、神経難病・褥瘡対策など、計 18 名が院外研修を受講した。

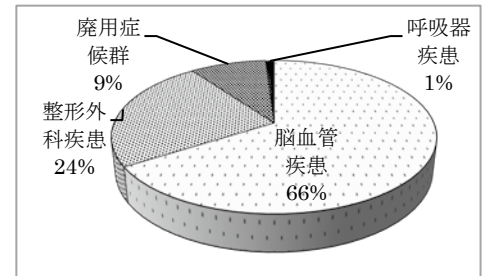
3 西病棟 (回復期リハビリテーション科)

看護師長 関戸 信江

1. 病棟概要

1) 主な疾患

脳血管疾患(脳梗塞・脳血栓・脳出血・くも膜下出血・頭部外傷・高次脳機能障害等)66%
整形外科疾患(大腿骨頸部・転子部骨折等)24%
廃用症候群 9% 呼吸器疾患1%



2) 主な治療・検査

理学療法、作業療法、言語療法、薬物療法、食事療法
血液検査、CT、MRI、心電図、脳波、嚥下造影
麻痺等に関する身体機能評価、言語機能障害の評価、精神機能面の評価、FIM 評価(機能的自立度評価表)、日常機能評価

医師、看護師、PT、OT、ST、MSW、栄養士などの多職種が連携を図りながらチーム医療を進めている。

2. 看護体制

- 1) 配置数:看護師長 1 名 副看護師長 2 名 看護師 21 名 非常勤看護助手 4 名
- 2) 看護提供体制:固定チームナーシング+継続受け持ち方式

3. 病棟運営状況

1) 運用病床数 50 床

	平成 30 年度	前年度比
平均在院患者数(名)	42.8	-2.3
平均在院日数(日)	92.9	+4.8
平均病床利用率(%)	91.3	+1.1

2) 在宅復帰率 81.2%

4. 看護の活動内容

- 1)カンファレンスにおいて患者の ADL の変化に応じた安全対策の検討、病床の環境整備に努めた。(転倒件数前年度 77 件より 37 件に減少)
- 2)褥瘡発生率は 0.8%で特に装具、弾性ストッキング使用時の観察及び座位ではプッシュアップを強化して実施した。
- 3)日常生活援助場面を通して ADL の維持、拡大を図るとともに、リハビリテーションに取り組む意欲が継続できるよう支援を行っている。また、全体ミーティング、リハビリカンファレンス、退院前カンファレンスなどのカンファレンスを計画的に行い、多職種との連携を図りながら、早期から社会、在宅復帰を目指した患者及び家族指導を行っている。

5. 教育

- 1)リハビリセミナー(18 回)及び病棟勉強会(10 回/年)脳血管障害の病態生理、治療、リハビリテーション、看護ケア、福祉、栄養、口腔ケア等について実施した。
- 2)看護研究発表:第 16 回国立病院看護研究学会 テーマ「看護師の勤務体制変更による脳血管疾患患者の転倒に関する考察」発表者 安田将

4 東病棟 (消化器外科・呼吸器外科・整形外科・泌尿器科)

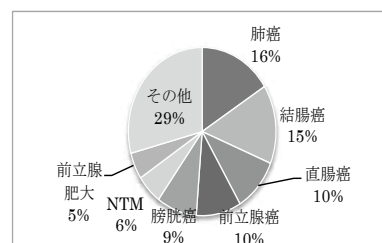
看護師長 小林 美和子

1. 病棟概要

1) 診療科、疾患、治療、検査

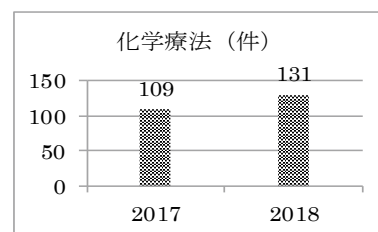
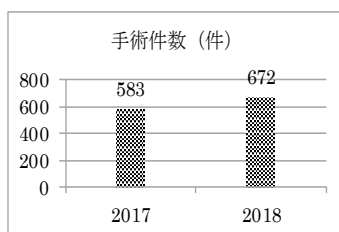
(1) 診療科・主な疾患

消化器外科・呼吸器外科・泌尿器科・整形外科であり、
主な疾患は、肺癌 16%、結腸癌 15%、直腸癌 10%である。



(2) 主な治療・検査

手術・化学療法は、増加傾向であった。



2) 看護の特徴

- ・手術対象の患者に対しては、術後合併症の予防と異常の早期発見に努め早期回復への援助を行っている。
- ・術後入退院を繰り返し、悪性腫瘍の化学療法、放射線療法を受ける患者や終末期を迎える患者も多いため、精神的援助も重視した看護を行っている。

2. 看護体制

1) 配置数: 看護師長1名 副看護師長2名 看護師 21名 非常勤看護助手 3名

2) 看護提供体制: 固定チーム継続受け持ち方式

3. 病棟運営状況

1) 運営病床数 48床

	平成 30 年度	前年度比
平均在院患者数(名)	33.2	-2.4
平均在院日数(日)	13.6	-0.1
平均病床利用率(%)	68.8	-5.5

4. 看護の活動内容

- 1) 体圧分散マットの使用やギャッチアップ時の背抜きなどを行い、褥瘡発生率は 1.41%(-1.46%)と減少した。
- 2) 転倒リスクの高い患者が多く環境調整を行い転倒防止に努め、転倒転落率は 2.11%(-1.15%)と減少した。

5. 教育

消化器外科、呼吸器外科、整形外科、泌尿器科病棟勉強会を定期的に行い、周手術期の看護、がん化学療法の看護・ストーマケアなどについて計画通り実施できた。
看護師のキャリアアップの一環として、院外研修への参加を計画的に推進した。

4 西病棟 (消化器内科)

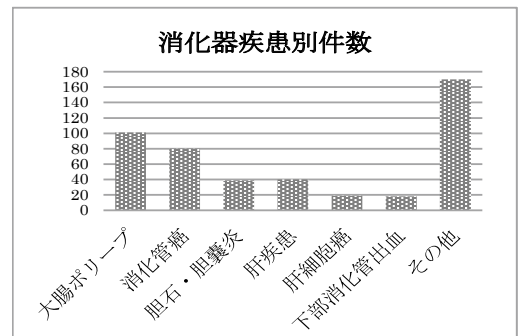
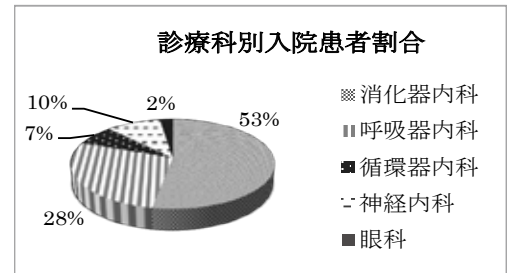
看護師長 松尾 由香子

1. 病棟概要

1) 診療科、疾患、治療、検査

(1) 診療科、疾患:消化器内科が 53%を占めており、主な疾患は、大腸ポリープ、胃・胆・肝・膵・大腸癌、肝硬変、出血性腸炎である。眼科は、白内障、眼瞼下垂の短期パス入院が 2%である。その他、呼吸器内科は 28%で誤嚥性肺炎、慢性呼吸不全、慢性閉塞性肺疾患。脳神経内科が 10%でありパーキンソン病、脳梗塞等の脱水や神経症状による緊急入院が多い。循環器内科は、6%であり心不全、感染性心内膜炎など。

(2) 主な治療、検査:点滴治療(化学療法、インターフェロン等)、内視鏡検査・治療(448 件/年)、ENBD、PTCD、PTGBD、局所療法(エタノール注入、RFA)、EIS、EVL、白内障・眼瞼下垂手術(171件/年)



2) 看護の特徴

肝疾患における長期的な治療を要する患者の看護をはじめ、急性期、慢性期、終末期の多岐にわたる看護を行っている。入院の半数以上(平成 30 年度 43.2%)が緊急入院患者であり、精神的援助と多科の様々な疾患に対応した看護を実施している。眼科の手術を受ける患者に対して、安全に安心して手術が受けられるように努めている。

2. 看護体制

- 1) 配置数:看護師長 1 名 副看護師長 2 名 看護師 18 名 非常勤看護助手 3 名
- 2) 看護提供体制:固定チームナーシング 継続受け持ち制 パートナーシップナーシングシステム

3. 病棟営状況

1) 運用病床数 50 床

	平成 30 年度	前年度比
平均在院患者数 (名)	34.3 名	-1.9 名
平均在院日数 (日)	16.9 日	-2.0 日
平均病床利用率 (%)	68.6%	-4.0%

4. 看護の活動内容

看護の質向上として、主に褥瘡・転倒転落・感染防止、に取り組んだ。褥瘡においては、適切なケアと記録、体圧分散寝具の選択ができ、発生率が 3.0→2.0%に減少した。緩和ケアスクリーニング実施率は前期 59.2%であったが認定看護師の指導により、後期は 89.8%に上昇した。看護の標準化、インシデント防止の観点から、眼科手術看護手順、眼瞼下垂パスの作成、配薬カート運用マニュアルの作成等、様々な業務改善を行った。

5. 教育

- 病棟勉強会:年間 10 回開催 消化器疾患病態生理、内視鏡検査、治療、看護ケア、急変時対応、感染対策、緩和ケア等
- 院外研修: 6 名参加 副看護師長新任研修、認知症対応力向上研修、リスクマネジメント、看護研究、褥瘡ケア、終末期看護等

5 東病棟 (呼吸器内科・循環器内科)

看護師長 飯倉 祐子

1. 病棟概要

1) 診療科、疾患、治療、検査

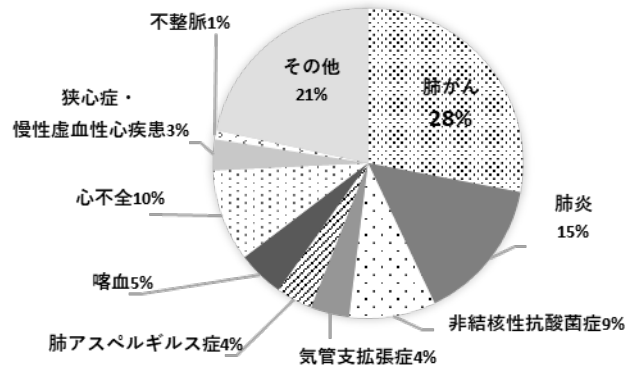
(1) 診療科:呼吸器内科、循環器内科

(2) 主な疾患:

- 呼吸器内科の患者は全体の 75% である。咯血で入院してくる患者は 5% いる。
- 循環器内科の患者は全体の 18% である。

(3) 主な治療:

化学療法、放射療法、酸素療法、吸入療法、胸腔ドレナージ、理学療法、気管支動脈閉塞術・冠動脈形成術、人工呼吸療法



2) 看護の特徴

気管支動脈閉塞術・冠動脈形成術を行う患者を多く受け入れている。患者が安全に不安なく治療を受けることができるように、患者及び家族の身体的・精神的・社会的側面に配慮した。また、インフォームドコンセントを重視した対応や QOL の維持・向上を目指し看護を実践した。

2. 看護体制

1) 配置数:看護師長 1 名 副看護師長 2 名 看護師 23 名 非常勤看護助手 2 名 非常勤看護事務助手 1 名

2) 看護提供体制:固定チームナーシング 継続受け持ち制

3. 病棟運営状況

1) 運用病床数 50 床

	平成 30 年度	前年度比
平均在院患者数(名)	43.1	+0.5
平均在院日数(日)	18.4	-0.5
平均病床利用率(%)	86.2	+1.0

退院調整を促進させるために地域連携室看護師・MSWと連携し、平均在院日数が減少した。

4. 看護の活動内容

看護の質改善として、看護の標準化を図るためのマニュアル等の改訂を行った。循環器疾患看護のマニュアルは適宜改訂を行い、より活用しやすくした。また、HOT 指導の統一化を図るためのマニュアルとチェックリストを改訂した。より標準化した看護が実施できるようになった。また、患者に安全で快適な療養環境の提供をするために、環境整備の手順を作成し習慣化を図った。看護師一人一人の安全に対する意識の向上につながった。

5. 教育

病棟勉強会:疾患に関すること 年間 12 回開催

5 西病棟 (呼吸器内科)

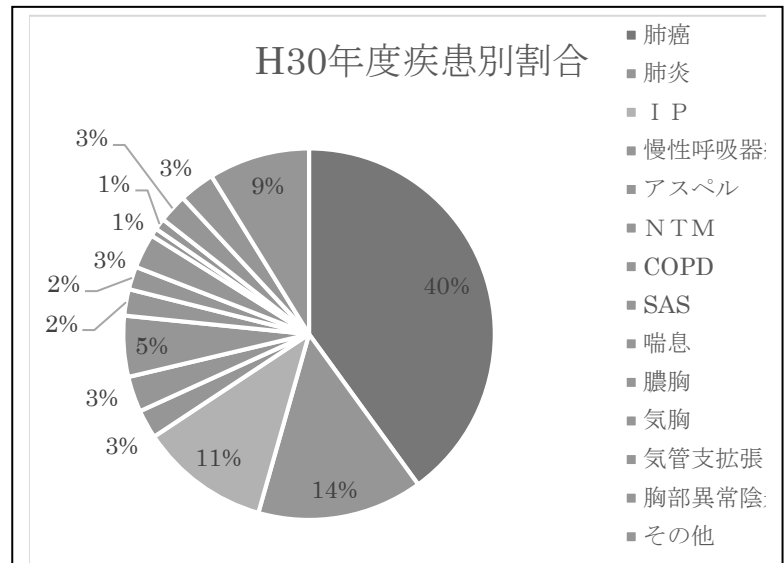
看護師長 板垣 裕子

1. 病棟概要

1) 疾患・治療の特徴

(1) 主な疾患

- 肺がん 40%
- 肺炎 14.4%
- 間質性肺炎 11.3%
- 慢性呼吸不全 2.5%
- 肺アスペルギルス症候群 3.1%
- 肺がんが 4 割を占め
化学療法が多い



(2) 主な治療

- 酸素療法 肺理学療法 非侵襲的鼻マスク人工呼吸器療法 (NPPV) 化学療法
- 放射線療法 胸腔ドレナージ 気管支鏡 気管支動脈塞栓術 胸腔鏡胸膜生検

2. 看護体制

- 1) 看護配置数: 看護師長 1 名 副看護師長 2 名 看護師 18 名 非常勤看護助手 2 名
- 2) 看護提供体制: 固定チームナーシング

3. 病棟運営状況

- 1) 運用病床数 50 床

	平成 30 年度	前年度比
平均在院患者数(名)	42.4	-1.6
平均在院日数(日)	19.7	-4.2
平均病床利用率(%)	84.8	-3.0

4. 看護の活動内容

「終末期患者への緩和ケアが充実する」を目標に、「生活のしやすさに関する質問票」「疼痛アセスメントシート」を活用し苦痛に関するカンファレンスを行い、必要に応じ緩和ケアチームへつなげることができた。院外研修の ELNEC-J やコミュニケーション研修、院内コミュニケーション研修受講したスタッフを中心に、病棟もてロールプレイングを行いコミュニケーション方法について学習をすすめた。時期を逃さずに患者の意思を引き出すために意識的にコミュニケーションをとるようにしケアの充実に努めた。

5. 教育

平成 30 年度は、看護師経験 3~4 年目のスタッフにおいて日勤における総リーダーの育成を強化した。さらに、全スタッフは、RST 研修を活用し、呼吸器科に勤務する看護師に必要不可欠な知識の習得に努めた。

6 東病棟 (呼吸器内科)

看護師長 加賀田 喜和子

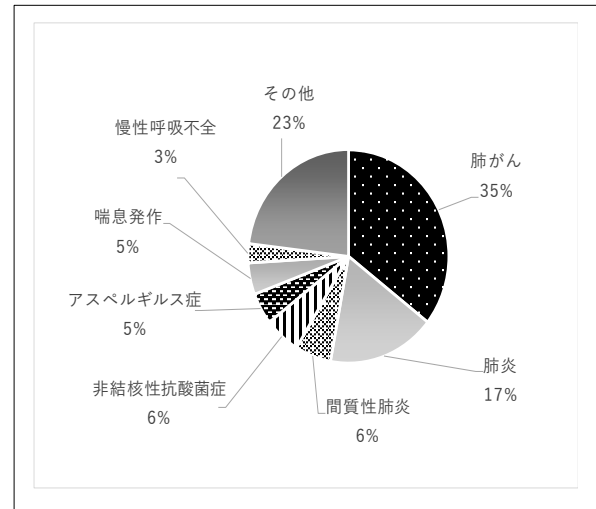
1. 病棟概要

1) 主な疾患

上位 3 位疾患は、肺がん 35%、肺炎 17%、間質性肺炎 7%である。その他では、HIV 気胸・胸水貯留などの疾患があげられる

2) 主な治療

内服治療・点滴治療・化学療法・放射線療法
気管支動脈塞栓術・胸腔ドレナージ
肺理学療法・酸素療法



2. 看護体制

1)配置数: 看護師長 1 名 副看護師長 2 名 看護師 21 名 非常勤看護助手 3 名

2)看護提供体制: 固定チーム継続受け持ち方式 パートナーシップナーシング

3. 病棟運営状況

1) 運用病床 50 床

	平成 30 年度	前年度比
平均在院患者数(名)	42.0	-1.5
平均在院日数(日)	18.9	-1.0
平均病床利用率(%)	84.0	-3.1

4. 看護の活動内容

1) 退院支援について情報収集・情報交換ができるように週 1 回退院調整カンファレンスを定期に実施した。必要時は、医師・薬剤師・PT に参加を依頼し、カンファレンスを行った。

2) 褥瘡発生率は 0.4%であった。褥瘡ハイリスク患者は、毎週体圧測定を行った。また、カンファレンスを実施し、結果を看護記録に記載することで継続的な看護を行った。早期に WOC に相談・介入を依頼し適切なケア・処置が実施できるよう配慮した。

3) 肺がん患者の身体的・精神的看護や、終末期における患者家族を含めた看護の提供に努めた。自宅で最期を過ごすことを希望する終末期患者には、院内の多職種だけでなく、訪問看護師など、院外のスタッフとの調整を行い、13 名の患者が退院できた。

5. 教育

医師による疾患・治療の勉強会や、チューターによる看護の勉強会など計画通り実施できた。院外研修を受講し、BLS 7 名、ACLS 1 名(インストラクター)が、資格を取得している。

6 西病棟 (呼吸器内科)

看護師長 佐藤 由美子

1. 病棟概要

1) 診療科: 呼吸器内科

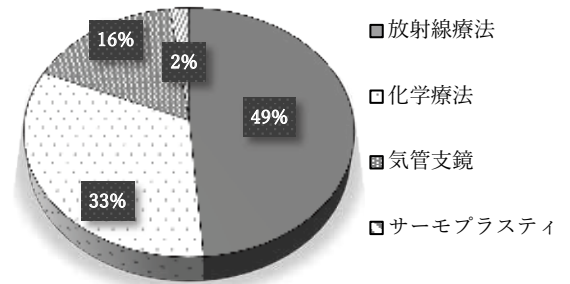
(1) 主な疾患:

肺癌患者がもっとも多く約半数を占めている。肺炎や気管支喘息などの患者が入院されており、前年度と比較して大きく変動はない。

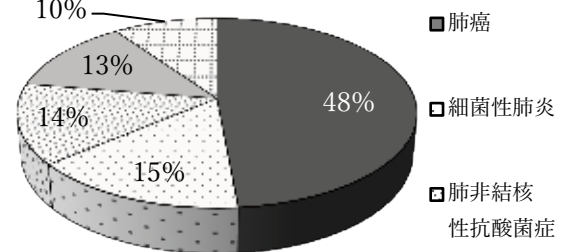
(2) 主な治療:

放射線療法、化学療法、気管支内視鏡、サーモプラスチック、吸入療法、NPPV 等が多くみられる。また前年度に比べ放射線療法、化学療法、気管支内視鏡についてはそれぞれ年間 30 件以上増加しており短期間入院の治療を行う入院患者が増えている。

H30年度主な治療割合



H30年度主な疾患別割合



2. 看護体制

- 1) 配置数：看護師長 1 名 副看護師長 2 名 看護師 20 名 非常勤看護助手 2 名
- 2) 看護提供体制：固定チームナーシング継続受け持ち制

3. 病棟運営状況

1) 運営病床数 50 床

	平成 30 年度	前年度比
平均在院患者数(名)	41.4	-0.6
平均在院日数(日)	17.5	-0.4
平均病床利用率(%)	82.8	-1.3

昨年度に比べて平均在院患者数、病床利用率が減少した。これは検査や短期治療目的での入院患者が増加したことが 要因の 1 つと考える。そのため平均在院日数も減少につながっている。

4. 看護の活動内容

患者の思いを確認しながら、認定看護師や退院調整看護師と共に退院調整合同カンファレンスの充実をはかることで、多角的かつ専門的な視点で看護を提供できた。

5. 教育

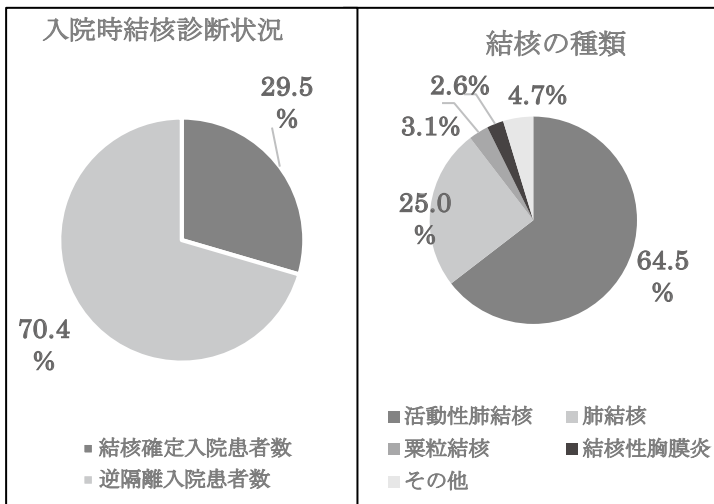
疾患、検査、看護、急変時の対応についての勉強会を企画・運営した。年間 11 回開催し呼吸器疾患看護の質を上げられるよう努めている。また新採用者の支援体制の強化をはかり、互いに情報共有を行うことで新採用者指導に活かした。

7 東病棟 (結核)

看護師長 小山 奈々絵

1. 概要

1) 診療科、疾患、治療、検査



(1) 主な疾患

主な疾患は肺結核 粟粒結核、結核性髄膜炎等である。結核が未確定患者の逆隔離入院の需要も多く、検査の結果、結核確定29.5%、非結核は70.4%である。

(2) 主な治療、検査

主な治療は、DOTSによる抗結核薬の化学療法やNST介入による栄養療法など。主な検査は、診断のための気管支鏡、胸腔鏡下肺(又は胸膜)生検術など

2) 看護の特徴

患者層は、独居者や生活困難者が約 4 割を占める。高齢者で要介助患者が多く、糖尿病や、肺炎の合併、低栄養状態の患者が増加傾向である。DOTSによる確実な内服と定期的通院、生活環境や安全な療養環境の調整が必要である。様々な地域から入院する患者は、地域性、生活習慣や背景が異なるため、入院当初から MSW や地域の担当保健師と退院に向けて連携する事が重要である。また、月 1 回「東京病院・保健所連携会議」を開催し、治療中断リスク患者の早期介入や支援を検討している。

2. 看護体制

1) 配置数: 看護師長 1 名 副看護師長 2 名 看護師 16 名 准看護師 1 名
非常勤看護助手 1 名

2) 看護提供体制: 固定チーム継続受け持ち制

3. 病棟運営状況

1) 運用病床 50 床

	平成 30 年度	前年度比
平均在院患者数(名)	36.1	-0.3
平均在院日数(日)	37.8	-4.6
平均病床利用率(%)	72.4	-0.4

他院の結核病床縮小により、結核患者数は増加している

4. 看護の活動内容

入院時から退院調整に取り組み、毎週火曜日、多職種による合同カンファレンスを実施。長期入院や、排菌患者の生活範囲制限によるストレス緩和、飲酒・禁煙指導を行うことが重要。他院紹介による緊急入院や、結核疑い患者の個室管理による逆隔離入院が多く、24 時間体制で入院要請に対応している。

5. 教育

7 東西病棟合同勉強会を開催。最新の結核の動向など計画的に実施。院外研修では、結核予防会結核研究所主催の保健師看護師基礎実践コースに病棟看護師 2 名が参加した。

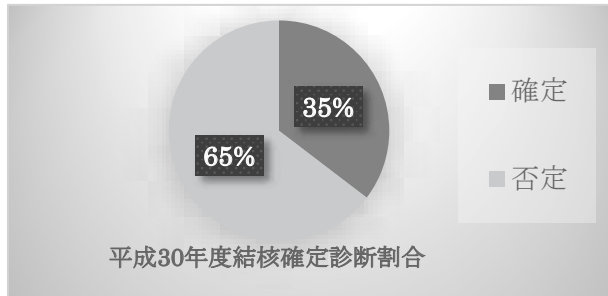
7 西病棟 (結核)

看護師長 井上 由香

1. 概要

1) 診療科、疾患、治療、検査

(1) 主な疾患



主な疾患は活動性肺結核、結核性胸膜炎 悪性腫瘍・HIV合併の結核 非定型抗酸菌症等である。結核が確定されていない患者の逆隔離入院の需要も多く、結核確定 35%、非結核は 65%である。

(2) 主治療、検査

主な治療は、DOTSによる抗結核薬の化学療法や栄養療法である。主な検査は結核診断のため気管支鏡、胸腔鏡下肺(又は胸膜)生検術などが実施されている。

2) 看護の特徴

患者層は、生活困難者や高齢者が多く、患者個々の地域性、生活習慣、生活背景を考慮した退院支援を、入院当初から行っている。DOTS による確実な内服により治療完遂を目標に地域保健師と連携を図り、月 1 回「東京病院・保健所連携会議」を開催し、治療中断リスク患者の早期介入や支援を検討している。

2. 看護体制

1) 配置数 看護師長 1 名 副看護師長 2 名 看護師 16 名 准看護師 1 名
非常勤看護助手 1 名

2) 看護提供体制 固定チーム継続受け持ち方式

3. 病棟運営状況

1) 運営病床数 50 床

	平成 30 年度	前年度比
平均在院患者数 (名)	38.1	+1.7
平均在院日数 (日)	41.9	-0.5
平均病床利用率 (%)	76.2	+3.4

4. 活動内容

服薬支援計画書の見直し修正を行い、患者個々の生活や背景を視野にアセスメントを行い、早期の退院支援ができ在院日数は減少した。

結核の専門病院としての役割を担うため、24 時間体制で入院受け入れができるようベッドコントロールを行うと伴に、スムーズな緊急入院受け入れ体制を目的に業務改善に取り組み患者数増加に繋がった。

5. 教育

勉強会係が中心となり今年度 7 東西の合同勉強会を開催した。講師は、医師・病棟スタッフがを行い、最新の結核の動向、多剤耐性結核の治療薬など、年間を通して計画的に実施した。

院外研修には、結核予防会結核研究所が主催する保健師看護師基礎実践コースに病棟看護師 2 名が参加した。

1. 病棟概要

1) 入室患者・治療の特徴

(1) 入室患者の診療科

呼吸器外科 64 名 呼吸器内科 55 名 消化器外科 45 名 泌尿器科 12 名
整形外科 7 名 循環器内科 7 名

(2) 入室患者の特徴

手術後入室患者—357 名(80%) 緊急入院患者—91 名(20%)

(3) 平成 30 年 12 月より HCU へ変更

呼吸器内科患者の利用が増加し、病床利用率が ICU45.1%→HCU91.8%へ増加した。

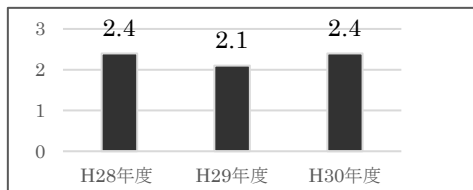
2. 看護体制

1) 配置数 看護師長 1 名 副看護師長 1 名 看護師 14 名

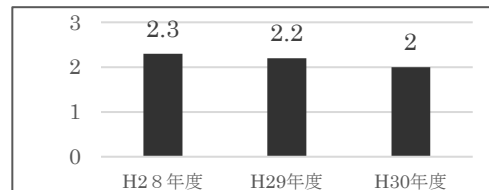
2) 看護提供体制 継続受持ち制

3. 病棟運営状況 運用病床数 4 床

1) 平均在院患者数 (2.4 人)



2) 平均在院日数(2.0 日)



4. 検査

気管支鏡検査(喀痰吸引のため)—53 件 胃内視鏡—7 件 アンギオ—3 件

5. 救急外来 平日 8:30~17:15 を HCU 対応

1) 救急車応需件数 345 件/年

呼吸器内科-194 件(56%) 消化器内科-46 件(13%)

神経内科-41 件(12%) 循環器-23 件(6%)

2) 時間帯

時間帯	件数
8~11 時	158 件
11~14 時	119 件
14~17 時	68 件

6. 学会発表

平成 30 東京都看護協会看護研究学会

ICU における挿管患者へのせん妄ケアの現状～J-PAD ガイドラインを導入して～

発表者 脇 実花

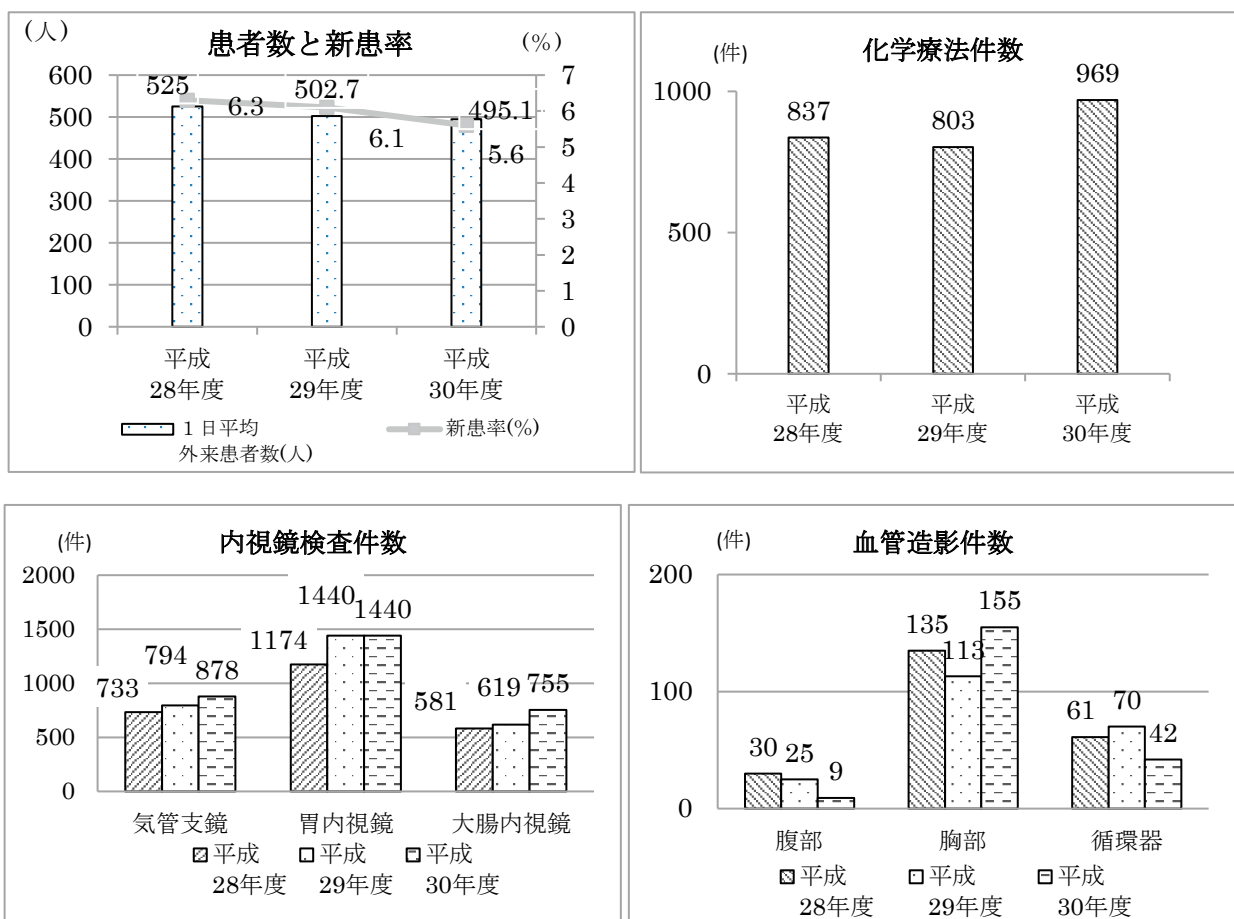
1. 外来の概要

平成 30 年度は、泌尿器科・呼吸器内科・整形・眼科・リウマチ科の患者数が目標数達成し、新患率は前年度-0.5 の 5.6 人であった。

呼吸器専門病院である当院は、在宅酸素をしている患者も多く、5 月および 10 月の年 2 回、在宅酸素の会を開催しており、これまで通算 48 回開催している。

結核患者退院後の DOT 治療支援体制についても、東京病院保健所結核連携会議を通じて、継続的に外来通院ができるよう支援している。

専門外来は、アレルギー（喘息）、糖尿病、いびき、睡眠時無呼吸症候群、COPD、禁煙、アスベスト、塵肺、緩和ケア、感染症、もの忘れ、高次機能障害、肺癌セカンドオピニオン、間質性肺炎、非定型抗酸菌症、喀血外来、ストマ、慢性呼吸器疾患看護外来がある。また、特定健診や消化器・呼吸器・人間ドックなど実施し、地域医療にも貢献している。



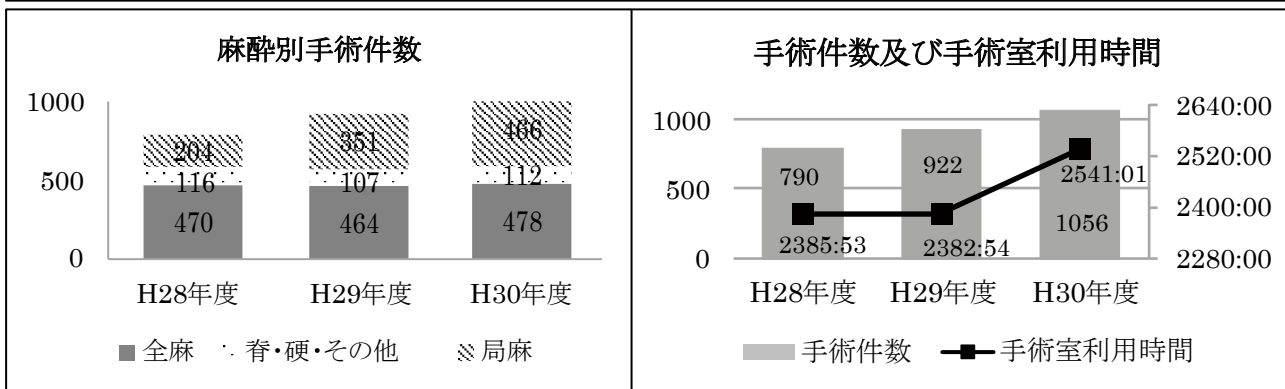
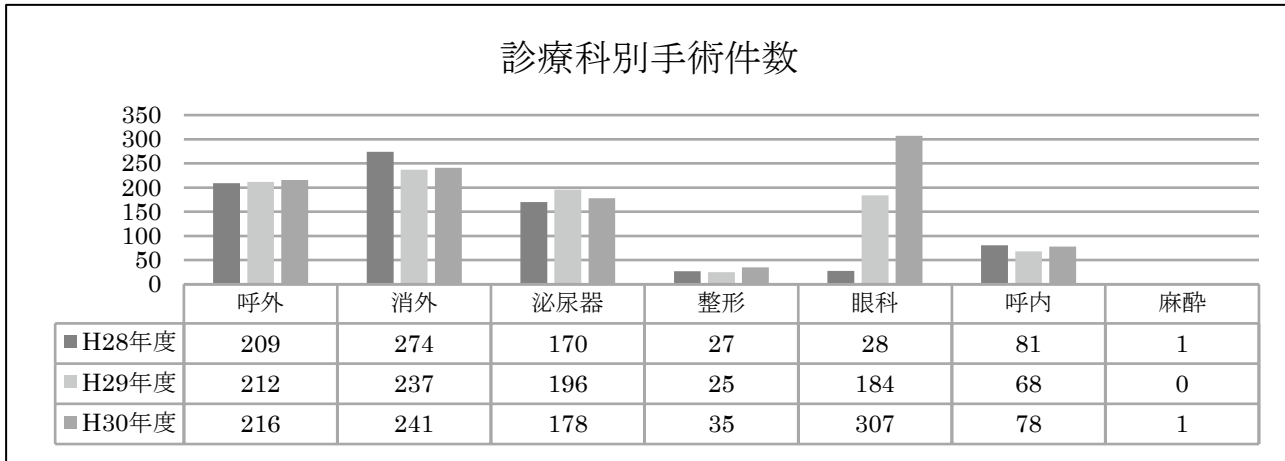
2. 教育

平成 30 年度の勉強会のテーマは①ヌーカラの取り扱いについて②ファセンラについて③テセントリクについて④診療報酬改定について⑤経食道エコー⑥アクテムラについて⑦白内障の手術について⑧ゴナックス皮下注射について

手術室・中央材料室

看護師長 原 輝美

1. 手術室の概要



2. 看護の活動内容

- 1) 患者誤認の防止と、医療安全のより一層の充実のために、サインイン・タイムアウト・サインアウトの実施基準に基づいて、全例、実施した。
- 2) 時間外が予測される予定手術は、遅出勤務で対応し超過勤務の縮減に努めた。
- 3) 手術件数により、副看護部長室と連携し、外来・病棟への業務支援を行った。

3. 教育

1) 勉強会の実施

「医療安全」「褥瘡」「防災」「麻酔看護」「感染防止」「手術中の体位」「薬剤について」等の7テーマで13回実施した。

4. 中央材料室滅菌部門の概要

医療器材の回収・洗浄・滅菌・払出し業務

- 1) 感染防止及び器械類の錆防止を目的に、血液凝固防止剤の散布によるコンテナ回収としている。
- 2) 滅菌機稼働回数・洗浄機稼働回数は、手術件数が増加した結果、年間稼働回数も増加した。
- 3) 滅菌器材の保管、定数管理状況について、各部署をラウンドし、指導を行った。

感染管理認定看護師活動

感染管理認定看護師 松本 優子

1. 活動内容

1) 院内感染防止対策の確認

- (1) 院内を巡視し、病室入室前後の手指衛生など標準予防策の順守状況を確認および指導
- (2) 薬剤耐性菌・*C. difficile*・インフルエンザ発生時の情報収集および感染拡大防止策の指導
- (3) 職業感染防止対策
 - ・全職員の採用時N95 着用方法指導とマスクフィッティングテストの実施
 - ・一般病棟入院患者の結核発生が9例あり、多摩小平保健所と連携し、接触者検診を実施
- (4) サーベイランスの継続(4東および7東西病棟-BSI、HCU-VAP、各種薬剤耐性菌、*C. difficile*、冬季ウイルス感染症、手指衛生)
- (5) 手洗いキャンペーン(看護部以外の部署には、個々にチェックし洗い方のポイントを指導)

2. 教育

- 1) 看護部教育委員会研修講義(新採用時オリエンテーション・新採用者実技・看護助手研修)
- 2) 看護部ICT委員会会議内勉強会 (全10回)

5月	ICT委員(リンクナース)の役割	講義
6月	標準予防策	講義
7月	手指衛生	実技
9月	環境整備	講義
10月	個人防護具	実技
11月	接触感染対策	講義
12月	急な嘔吐時の対応(嘔吐物の処理)	実技
1月	血管内カテーテル関連血流感染防止対策	講義
2月	洗浄・消毒・滅菌	講義
3月	針刺し切創粘膜曝露事故防止対策	講義

- 3) 看護部認定看護師主催『看護専門コース研修-感染管理』 導入編6名、基礎編2名参加

3. 委員会活動

- 1) 感染制御部会(週1回)
- 2) AST会議(週1回)-平成30年度4月から開催
- 2) 院内感染防止対策委員会(月1回)
- 3) 看護部ICT委員会(4月と8月を除き月1回)
 - ・8月-10月-1月に各委員による自部署のスタッフのバイタルサイン測定時の手指衛生直接観察を実施。実施に伴い観察方法の指導と結果の集計分析を行い、フィードバックした。8月の手指衛生遵守率は、73.5%であったが、1月は、83.9%と増加した。

4. 感染制御部会主催研修運営(全職員2回出席 100%達成)

	内容	出席人数
6月	CRE	616名
10月	インフルエンザ/ノロウイルス	594名

5. 他の医療機関との連携

- ・滝山病院と連携カンファレンス(計4回)実施
- ・複十字病院と地域連携カンファレンス・相互間チェック実施

6. 院外研修講義:『標準予防策～事例をもとに対策確認』 医療法人財団保養会竹丘病院職員

緩和ケア認定看護師活動

緩和ケア認定看護師 村山 朋美

1. 活動内容

1) 実践

- (1)病棟ラウンド(4～6 東西病棟) 患者訪問:305 件 IC 同席:37 件
- (2)患者面談:203 件実施 がん患者指導管理料 2:115 件
- (3)毎週木曜日 13:30～緩和ケアチームカンファレンス・ラウンド参加:129 件
- (4)緩和ケア相談外来(木曜日・金曜日)374 件中 同席:243 件
- (5)『生活のしやすさに関する質問票』聴取による緩和ケアスクリーニング実施状況把握と緩和ケア要観察患者の症状マネジメント リンクナースとの情報共有
スクリーニング実施率:87.7%(4・5・6 東西病棟)

2) 相談

(1)緩和ケア入院のコンサルテーション

入院患者 203 件の緩和ケア入院面談を実施し、意思決定に対する支援を行った。

(2)看護師からのコンサルテーション

インフォーマルなコンサルテーションは 40 事例あり、関わり方 1 件、疼痛・症状 16 件、今後の過ごし方や意思決定支援 7 件、精神面 5 件、家族ケア 6 件、緩和ケアに関する情報提供:5 件について、直接介入または、カンファレンスでの検討を行った。

(3)緩和ケアチームへのコンサルテーション 緩和ケアチーム報告参照

3) 指導

(1)認定看護師主催研修 専門コース『緩和ケア』導入編・基礎編・応用編

導入編:10 名 基礎編:4 名 応用編 1 名が受講した。

(2)東京都訪問看護教育ステーション事業 訪問看護師のための医療機関における実習受け入れ「緩和ケアコース」訪問看護師 9 名(2 日間 全 5 回)

(3)実習受け入れ 埼玉県立大学 認定看護師教育課程「緩和ケアコース」実習生:2 名

4) 緩和ケア関連施設との連携

(1)地域連携緩和ケアカンファレンスの参加 事例紹介(10 月 5 日)

(2)多摩地区緩和ケア認定看護師の会への参加(7 月 22 日)

(3)清瀬ホスピス緩和ケア週間イベント(救世軍清瀬病院・信愛病院・複十字病院と共催)

*パネル展示(8 月 17 日～10 月 27 日)*記念講演(10 月 20 日) 参加者:約 70 名

*病院紹介 緩和ケア病棟見学ツアー(10 月 20 日・27 日)参加者:104 名

5) その他

(1)第 23 回緩和医療学会学術大会の研究発表:『緩和ケアチームの質の向上を図るための取り組み』

(2)ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム講師(6 月 23 日・24 日)

(3)清瀬市医療・介護連携推進協議会主催 平成 30 年度第 4 回『きよせケアセミナー』講師 『緩和ケア』(12 月 15 日)

皮膚・排泄ケア認定看護師活動

皮膚・排泄ケア認定看護師 雨宮 順子、宮川 恵

1. 実践報告

1) 実践

(1) 褥瘡リスク・ハイリスク患者の予防ケア方法検討・確認のためのラウンドを実施した。

リスク・ハイリスク患者の把握が円滑になり褥瘡予防対策につなげることができた結果、ハイリスクケア加算取得件数が523件だった。

褥瘡有病率 2.43% 推定発生率 0.97%で目標の1%以下を達成出来た。

(2) 体圧分散マットレスの老朽化が懸念されていたが、(ネクスR)の更新につながり、より一層予防的な介入ができた。

2) 指導

看護部褥瘡予防研修を6月と7月に開催した。

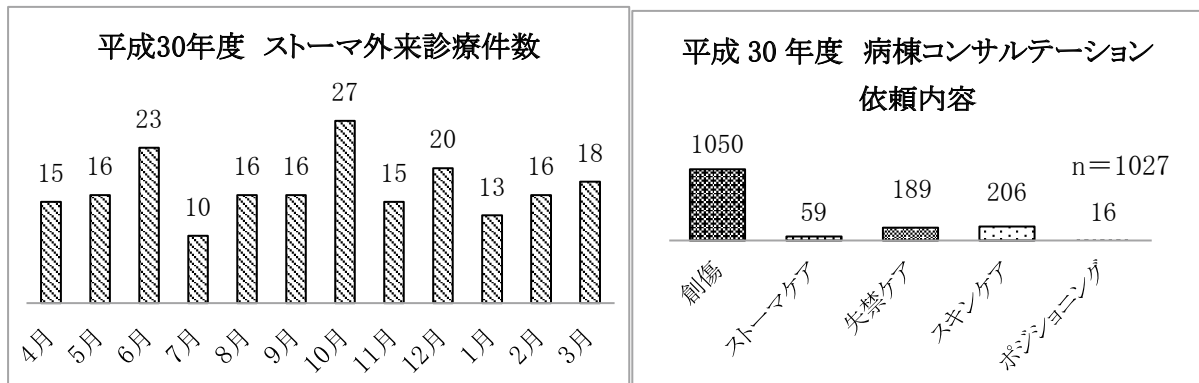
6月「体圧値を可視化してみよう」49名参加 7月「おむつの選び方と使い方」51名参加

3) 相談

(1) ストーマ外来: 185件(毎週火曜日・午前)

(2) 病棟コンサルテーション: 1027件

(創傷675件・ストーマケア74件・失禁ケア132件・スキンケア131件・ポジショニング15件)

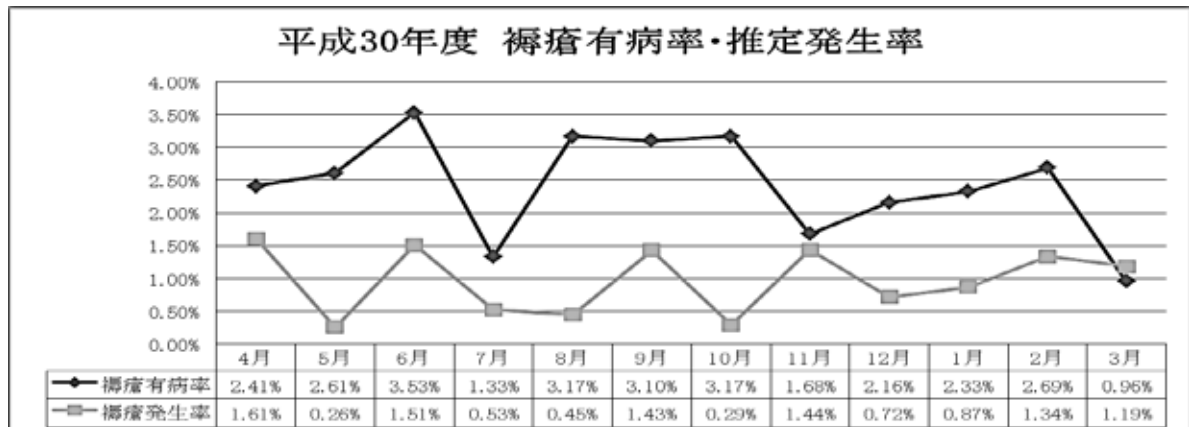


2. 委員会活動

1) 褥瘡対策委員会・褥瘡対策部会を月1回開催し褥瘡患者データ報告した。

褥瘡対策委員会メンバーとともに褥瘡回診を行い、チームとして活動した。

2) 看護部褥瘡対策委員会を隔月1回開催し、企画・運営及びマニュアルを整備した。



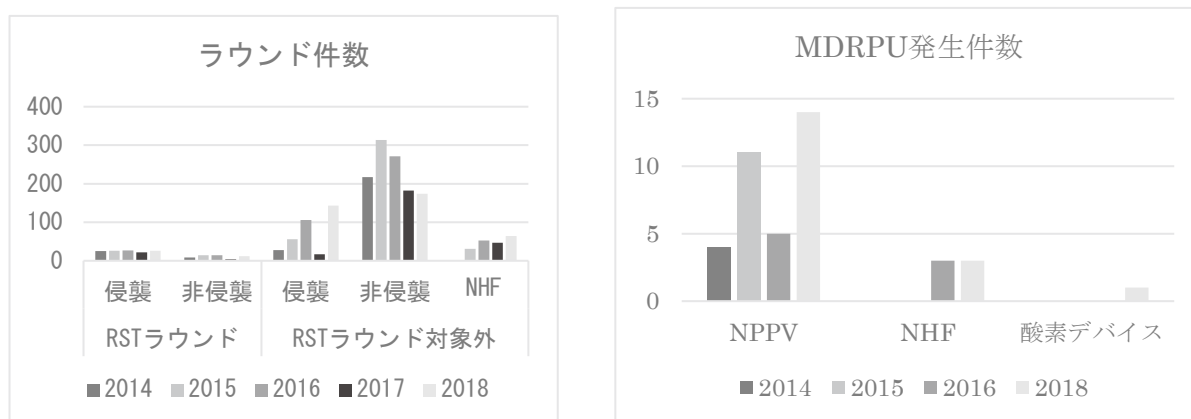
慢性呼吸器疾患看護認定看護師活動

慢性呼吸器疾患看護認定看護師 秋田 馨

1. 活動内容

1)実践

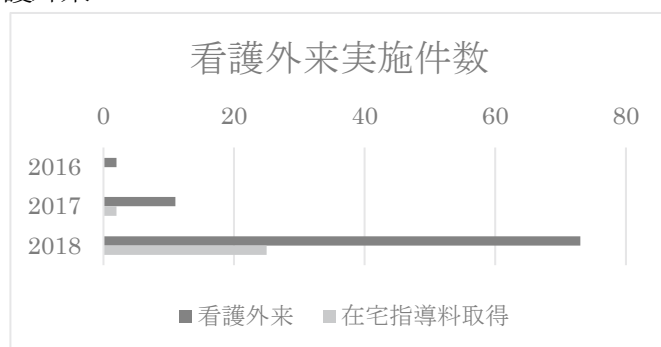
(1)毎週月曜日に活動日を設けており、NPPV・NHF 装着患者のラウンド、及びRST ラウンド対象外の人工呼吸器装着患者のケアや安全確認を行っている。



ラウンド時はMDRPU 予防のため、NPPV やNHF のインターフェイスの調整などを行っている。2018年度はNPPV マスクによる発赤は9件、口腔内の潰瘍は2件発生、NHF による鼻中隔の潰瘍が3件、カメラによる鼻壁内腔の潰瘍が1件発生した。

呼吸ケアに関するマニュアルの整備の一環として、2017年度に発生したインシデントからCAPA・メラ唾液持続吸引チューブ・人工鼻を作成し看護手順に組み込んでもらうことができた。NPPV 回路交換忘れもみられたため、NPPV 慢性期のマニュアルも一部修正している。

2)看護外来



2016年度から開始している慢性呼吸器看護外来は73件24名介入することができた。その内、在宅指導料加算は25件取得した。

2. 指導 (院内活動)

1) RST 研修講師

「人工呼吸器装着患者の観察と記録」「NPPV 概論」「NHF」の研修を実施した。

2) 在宅酸素の会

5月「熊本の災害を受けて～日頃の災害対策を確認しよう」、10月「よりよく栄養を摂る方法」について患者教育を行った。

3) シャドーイング研修

認定看護師会主催研修を開催し、導入編7名、基礎編1名の参加を得られた。

がん化学療法看護認定看護師活動

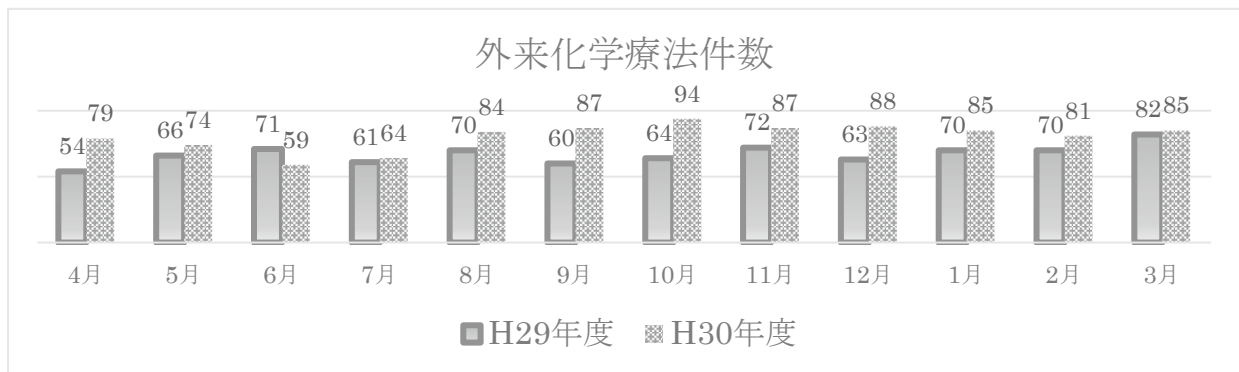
がん化学療法看護認定看護師 井原 亜沙子

1.活動内容

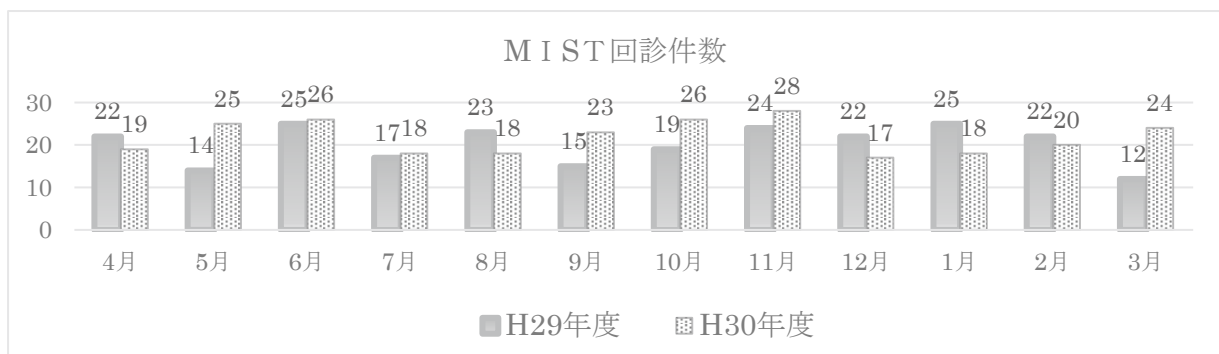
1)実践

入院で分子標的治療および免疫治療を行う患者に対し、有害事象のモニタリングと患者教育を行う。また、スタッフに対してもセルフケア支援の指導として回診内容を記録に残し、発信する。また、外来での分子標的経口治療を行う患者への有害事象のモニタリングと患者教育も施行する。

(1)外来化学療法件数:969件



(2)MIST 回診 件数 240件



(3)研究発表:第59回日本肺癌学会学術集会(京王プラザホテル)

演題「外来化学療法室における緩和ケア介入の後方視的調査—殺細胞性抗がん剤と免疫治療薬の比較—」

(4)新規レジメンのテンプレート作成

2)指導

(1)看護専門コース研修 :導入編 8名 応用編 1名

(2)実習生指導:目白大学看護学部:統合看護実習 成人看護学実習Ⅱ

3)がん患者指導管理料2加算(心理的不安を軽減するための面接)

面談件数:35件(4東13件、4西4件、6東1件、6西2件、外来7件)

入院患者では、有害事象のケアに対する指導や脱毛時のケア・ウィッグの選択方法の相談等、外来患者では、分子標的経口治療を受けている患者を中心に退院後の継続的な有害事象の確認とケアの指導を主に行った。

地域医療連携室

地域医療連携係長 人見 公代
退院調整副看護師長 野上 智絵

活動内容

1. 地域連携室体制（看護）

地域医療連携係長（看護師長）1名 退院調整副看護師長1名 看護師3名

2. 入院、緊急入院時のベッド調整を円滑に行い、効率的な病床管理を実施する。

- 1) 一般病棟病床管理ミーティング、HCU をラウンドし、空床状況、勤務状況などの情報から安全な療養環境の提供を視点を、緊急入院患者のベッド調整を実施した。
- 2) 各医療機関からの入院依頼に対して、円滑に受け入れができるよう入院ベッドの調整を図り、連携室を通じた入院受入れ件数は82%から84.9%に上昇した。
- 3) ケアマネージャー、地域保健師などからのレスパイト入院の相談に応じ、病棟看護師長との連携のもと受け入れを実施した。
- 4) 地域医療機関との連携強化を図る。

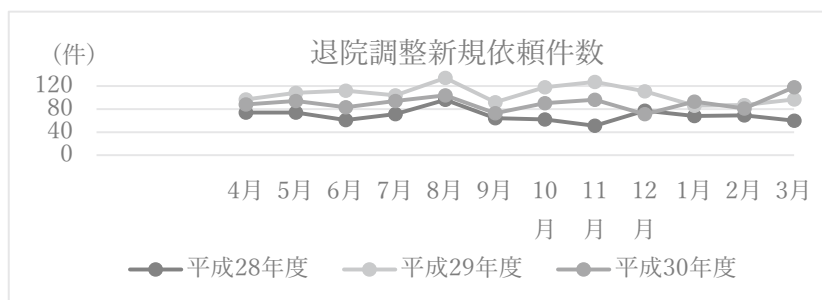
(1) 病院訪問11施設、訪問看護ステーション3施設を実施。顔の見える関係作りを目的に各施設の診療、利用状況などの情報交換とともに、当院の交流会、病院祭のご紹介など広報活動を実施した。

3. 入院サポートの実施

入院支援として入院オリエンテーションを外来で看護師が一部行っていたが、本年度より体制を再検討し、呼吸器外科、泌尿器の手術目的患者に対し、多職種による入院サポートを開始した。

4. 教育

1) 新たなに配置された退院調整看護師の育成



退院調整新規依頼総数
平成28年度 827件
平成29年度 1273件
平成30年度 1085件

2) 「退院調整研修(導入、基礎、応用)」開催、訪問看護研修の企画と実施

3) 東京医療保健大学 成人看護学実習

5. 退院支援リンクナース会の効果的な運用と活用によるリンクナースの支援

1) リンクナースの役割の提示と退院調整看護師との連携による退院支援情報の把握

6. その他

東京都難病支援ネットワーク連携会議参加

平成30年度看護管理者連絡会議参加 など

教育担当看護師活動

教育担当看護師長 白濱 美佐子

活動内容

1. 新人看護師への支援を行う

1) 新人看護師の看護技術支援

- (1) 病棟ラウンドを行い、新人看護師の看護場面を通して直接的指導に努めた
- (2) 情報収集の方法と、情報に基づく一日の業務計画の立て方について
- (3) 新人看護師と一緒にケアを実施しながら根拠に基づいた具体的な援助方法について
- (4) シャドウウィングを行い、看護の優先度の判断方法や、多重課題への対処方法について

3か月まで	困っている事に対して、行動レベルで助言する
3～6か月まで	新人看護師が自分で行動できるよう支援する
6か月以降	根拠を踏まえて実践ができるように助言する

2) 日常的に使用するME機器を安全に使用できるため、集合教育後に個別指導と確認テストを行った。

- (1) 看護単位毎で看護技術チェックリストを用いた看護技術評価(3・6・12か月)を実施した。
- (2) 看護技術習得状況を確認し、技術習得のためのフォローアップ研修を実施した。

3) 新人看護師の精神的支援

(1) 個別カウンセリング(面接)

- ① 5月～6月、10月～11月の時期に新人看護師に対し実施
- ② 新人看護師から相談を受け、タイムリーに実施
- ③ 当該看護師長・副看護師長から相談を受け実施

2. 各看護単位の新人教育担当者への支援

- 1) 現場教育の実際を見て、副看護師長及びメンターに支援的な声かけを行った。
- 2) 各病棟の新人看護師指導担当者会議に出席し、具体的な指導方法について助言した。
- 3) 看護師長、副看護師長との報告・相談を密にし、OJTとOff-JTの連携を図った。

3. 看護部教育委員と共に「看護職員能力開発プログラム Version2」の改定に伴い系統的な教育の企画と運営を統括する

- 1) 院内教育の企画・運営について、教育委員会の各コースの担当者と共同実施した。
(教育委員会活動報告参照)

4. 「新人看護職員研修ガイドライン」に基づき、当院の新人看護師教育体制の強化

- 1) メンター、チューター制を導入し、病棟全体で指導していく「チーム支援型」教育体制の強化を図った。
- 2) 看護師長、副看護師長との報告、連絡を密にし、それぞれの役割が果たせるよう支援した。

看護部教育委員会

教育担当看護師長 白濱 美佐子

1. 目的

看護の専門性を高め、専門職業人として看護職員の質向上を目指した教育を実施するための企画・運営を行う。

2. 目標

- 1) 社会人、専門職業人としての自覚を持ち、責任ある行動がとれる
- 2) 東京病院看護師としての役割を認識し、看護専門職としての患者の状態に応じた適切で効果的な看護ができる
- 3) 患者・家族及び職員間において、良好な人間関係を築きながら業務を遂行できる
- 4) 自己研鑽に努め、教育・指導及び研究的態度を身につけることができる

3. 活動内容

コース	研修内容	研修回（トータル時間）	担当者	
新人 レベルⅠ	基本的看護技術（与薬・接遇・感染予防・輸液管理・採血・輸液ポンプ・急変時の対応・スキンケア・医療安全・点滴静脈注射）	10回（21h）	白濱 森田 松本 雨宮 駒井 白土 富樫 木崎 脇川	
	フォローアップ （1か月・3か月・6か月・9か月・11か月）	5回（11h30m）		
レベルⅡ	ケーススタディ	2回（6h）	関戸 木崎 白濱 富樫	
	多職種連携	1回（132h）		
レベルⅢ	リーダーシップ1	2回（4h30m）	関戸 村山 中里 駒井	
	看護倫理	1回（2h15m）		
レベルⅣ	リーダーシップ2 問題解決	2回（4h30m）	関戸 伊藤 柿崎 脇川 富樫	
	看護倫理	2回（4h30m）		関戸 伊藤 中里 駒井
	コミュニケーション・スキル	2回（16h30m）		
レベルⅤ	コミュニケーション・スキル・ファシリテーター	1回（4h45m）	白濱 村山	
メンター 研修	効果的な新人指導	4回（9h）	白濱 吉田 駒井 大竹	
次期メンター 研修	新人指導者としての心構え	1回（2h15m）	吉田 駒井	
伝達講習	院外研修の知識の共有	2回（1h45m）	吉田 関戸 白濱	
看護助手	接遇・医療安全・感染予防	3回（3h）	駒井 金田 松本	
新人看護師 看護技術フ ォローアッ プ研修	①気管内吸引 ②エンゼルケア ③輸液ポンプ ④心電図 ⑤シリンジポンプ	①3回（2h） ②4回（4h） ③4回（4h） ④4回（4h） ⑤4回（4h）	白濱	

研究活動・研修参加状況（30年度）

1. 看護部の教育実施状況

1) 院内教育委員会

(1) 教育目的

看護の専門性を高め専門職業人として看護職員の質向上を目指した教育を実施するため企画・運営を行う。

(2) 教育目標

1. 社会人、専門職業人としての自覚を持ち、責任ある行動がとれる
2. 東京病院看護師としての役割を認識し、看護専門職としての患者の状態に応じた適切で効果的な看護ができる
3. 患者・家族及び職員間において、良好な人間関係を築きながら業務を遂行できる
4. 自己研鑽に努め、教育・指導及び研究的態度を身につけることができる

(3) 内容

コース	レベル別到達目標	研修テーマ	GIO	方法	講師	研修日	時間	参加者
レベルⅠ (新人看護師)	職場への早期適応と看護実践者としての基本的な能力を習得する 1. 東京病院の組織・機能・役割を理解し、組織の一員として自覚する 2. 看護師としての基本的知識・技術・態度を身につけ看護実践できる 3. チームの一員であることを認識し、責任のある行動がとれる	基本看護技術 与薬	安全に与薬するための手順と方法が理解できる	講義/演習	5東 駒井智子副看護師長	4月4日	1h	29名
		基本看護技術 感染予防	個人防護服の着脱、グローブの着脱の手順が理解できる	講義/演習	感染管理認定看護師 松本優子副看護師長	4月4日	1h 15m	29名
		基本看護技術 接遇	患者・家族に看護職の対応が与える影響を理解した接遇を理解できる	演習		4月4日	1h 15m	29名
		基本看護技術 採血	1. 静脈血採血の手順と方法が理解できる 2. 静脈血採血における医療安全、感染防止対策のポイントが理解できる 3. 翼状針の安全な使用方法を理解できる	講義/演習	6東 白土遼子副看護師長	4月13日	2h15m	29名
		基本看護技術 輸液管理	1. 輸液の準備、実施の手順と方法が理解できる 2. 輸液管理における医療安全、感染防止対策のポイントが理解できる	講義/演習	5西 富樫奈津子副看護師長	4月23日	2h15m	29名
		基本看護技術 急変時の対応	1. 患者急変時の看護師の行動を知る 2. 患者急変時に必要な観察項目を理解する 3. 患者急変時に必要な看護技術を習得する	講義/演習	5西 富樫奈津子副看護師長	5月30日	2h15m	29名
		基本看護技術 スキンケア	1. スキンケアの基本について特徴を理解できる 2. 効果的な清潔ケアを実施できる	講義/演習	皮膚・排泄ケア認定看護師 雨宮順子副看護師長	7月30日	1h 50m	28名
		基本看護技術 医療安全	1. 看護行為に伴う危険性の理解ができる 2. 誤認・誤薬防止対策について理解できる 3. 自発的な医療安全対策を考えることができる	講義/GW	医療安全管理係長 森田久美子看護師長	7月30日	1h 50m	28名
		基本看護技術 輸液ポンプ	輸液ポンプを安全に操作するための知識、技術を修得することができる	講義/演習	4東 木崎綾乃副看護師長 薬剤師：立川、ME：宮本	9月6日	3h 30m	28名
		基本看護技術 点滴静脈注射	静脈注射に必要な知識・技術・態度を修得することができる	講義/演習/テスト	6東 白土遼子副看護師長	11月26日	3h	28名

コース	レベル別到達目標	研修テーマ	GIO	方法	講師	研修日	時間	参加者
レベルⅠ (新人看護師)		フォローアップ	1. チームの一員であることを認識し、責任ある行動について理解できる 2. 看護師としての基本的な態度について理解できる 3. 将来目指したい看護師像を述べるができる	講義/GW	5東 駒井智子副看護師長	5月2日	2h	29名
		フォローアップ	3か月を振り返り、今感じている悩みや不安を表出し、思いを共有することができる	講義/GW	6西 脇川範子副看護師長	7月2日	2h	28名
		フォローアップ	1. 6か月を振り返り、今感じていることや悩み、不安を表出し、後期に向けて目標を明確にできる	講義/GW	6西 脇川範子副看護師長	9月26日	2h15m	28名
レベルⅠ (新人看護師)	職場への早期適応と看護実践者としての基本的な能力を習得する 1. 東京病院の組織・機能・役割を理解し、組織の一員として自覚する 2. 看護師としての基本的知識・技術・態度を身につけて看護実践できる 3. チームの一員であることを認識し、責任のある行動がとれる	フォローアップ	多重課題・時間切迫の状況下で、患者に安全で適切な看護技術が実践できる	講義/演習	6東 白土遼子副看護師長	10月22日	3h	28名
		フォローアップ	1. 自己の克服すべき課題を明確にする 2. 1年間の看護を振り返り自己の成長を自覚する 3. 2年目の看護師として自己の到達目標を明確にする	講義/GW	教育担当 白濱美佐子看護師長	2月4日	2h15m	26名
レベルⅡ	1. 看護チームの一員としての役割を理解し、メンバーシップが発揮できる 2. 患者の状況に応じ、必要な看護ケアを実践できる能力を修得する 3. 看護過程の展開、ケーススタディを通して対象の理解ができる	ケーススタディ	1. 看護過程の展開を通して患者を統合的にとらえることができる。 2. 看護過程の展開をケーススタディとしてまとめることができる	講義	3西 関戸看護師長	6月13日	2h	30名
				発表		12月3.5.6日	4h	29名
		多職種との協働	1. 他部門との関わりを通して病院全体のシステムを理解する 2. 組織における自己の役割を認識する	シャドー		9月～11月のうちの一日	4h×33	33名
レベルⅢ	1. 日々のリーダーの役割を理解し、リーダーシップを発揮することができる 2. 日々のリーダーの役割を果たし、後輩への支援ができる	リーダーシップ①	1. リーダーシップの基本的な考え方を学ぶ 2. 固定チームナーシングにおける日々のリーダーの役割と業務が理解できる 3. 日々のリーダー業務を通して、後輩への支援の方法について理解できる	講義/GW	3西 関戸看護師長	7月30日	2H15M	20名
		看護倫理①	1. リーダーシップの基本的な考え方を学ぶ 2. 固定チームナーシングにおける日々のリーダーの役割と業務が理解できる 3. 日々のリーダー業務を通して、後輩への支援の方法について理解できる	講義/GW	緩和ケア認定看護師 村山朋美副看護師長	10月24日	2h15m	24名

コース	レベル別到達目標	研修テーマ	GIO	方法	講師	研修日	時間	参加者
レベルIV	1. 目標達成のための問題を理解し、解決に向けての行動をとることができる 2. 管理的側面に対する考え方や行動を身につけることができる	リーダーシップ② 問題解決	1. 看護実践者としての役割モデルになる 2. チームリーダーとしての役割が果たせる	講義/ GW	3西 伊藤副看護師長	6月19日	2h15m	17名
				発表		1月12日	2h15m	14名
	1. 看護実践上の看護倫理が理解できる 2. 臨床における倫理的課題を明確にし分析できる 3. 各看護単位での倫理の課題解決に向けて提案できる	看護倫理	1. 看護倫理を理解し、問題提起できる	講義/GW	緩和ケア認定看護師 村山朋美副看護師長	9月8日	2H15M	15名
				発表		12月18日	2H15M	14名
	1. 看護師に必要な傾聴と共感のコミュニケーションスキルを習得する	コミュニケーションスキル 意思決定支援	1. 看護師に必要な傾聴と共感のコミュニケーションスキルを列挙する 2. 自己のコミュニケーションスタイルを自覚する 3. 患者体験を通し、患者の気持ちに気づきを示す 4. 看護師に必要なコミュニケーションスキルをロールプレイで演示する 5. 理解、承認の技法を用いてスタッフ間、他職種との関係構築を図る	講義/ ロールプレイ	緩和ケア認定看護師 村山朋美副看護師長	10月10日 11月7日	8h15m×2	43名
レベルV	患者の感情表出を促進させるためのコミュニケーションスキルであるNURSEを活用しファシリテーターの役割を習得する	コミュニケーションスキル ファシリテーター	1. コミュニケーションスキルの手段であるNURSEを理解する 2. 患者の感情に対するNURSEの技法を用いて体験する	講義/ ロールプレイ	緩和ケア認定看護師 村山朋美副看護師長	12月3日	4h45m	5名
役割研修	新人看護職員研修を効果的に実施するための実地指導者の役割を果たす	効果的な新人指導	1. 新人看護職員の職場への適応状態を把握し、新人看護職員へ基本的な看護技術の指導および精神的支援ができる 2. 東京病院の看護職員研修計画に沿って、教育担当者とともに部署における新人看護職員研修の個別プログラム立案、実施および評価ができる	講義/GW	5東 駒井智子副看護師長	5月21日	2h15m	20名
				講義/GW	5東 駒井智子副看護師長	7月6日	2h15m	18名
				講義/GW	5東 駒井智子副看護師長	10月4日	2h15m	19名
				講義/GW	5東 駒井智子副看護師長	1月11日	2h15m	18名
		新人指導者としての心構え	1. 東京病院の新人教育体制を理解し、指導計画を立案することができる 2. 新人看護師の特徴を理解し、指導方法を習得する	講義/GW	2病棟大竹真理子副看護師長 教育担当白濱美佐子看護師長 HCU吉田あゆみ看護師長	2月27日	2h15m	18名

コース	レベル別到達目標	研修テーマ	GIO	方法	講師	研修日	時間	参加者
役割研修	患者に安全で安楽な療養環境を提供できる	接遇	1. 当院の看護チームの一員としての役割がわかる 2. 当院の看護助手としての接遇を身につけ、実践できる	講義/演習	5東 駒井智子副看護師長	6月4, 5日	1 h	28名
		医療安全	当院における事故防止対策を理解し、快適な療養環境を整えることができる	講義/演習	5西 金田奈津子副看護師長	9月3, 6日	1 h	28名
		感染予防	当院における院内感染防止対策を理解し、快適な療養環境を整えることができる	講義/演習	感染管理認定看護師 松本優子副看護師長	12月6、7日	1 h	28名

委員会活動状況

委員会名	活動内容
教育委員会	教育実施状況参照
業務改善委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員が看護手順に基づいた看護を実践するように看護手順の活用を働きかけ、活用状況を確認 2. 30項目の看護手順を修正、追加、見直し（図や写真を用いてビジュアル化、ICT委員会と協同見直し） 3. 新規看護手順を作成、整備（転出・入時のチェックリスト、基礎情報用紙）
看護記録委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護記録の形式の監査（6月・11月）質の監査（12月）看護サマリ作成状況調査 2. 看護必要度の評価の根拠となる記録ができるように看護記録監査用紙・監査マニュアルを作成して監査を実施 3. 各看護単位で記載方法に関する勉強会（8月）
リスクマネジメント委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 与薬インシデントの防止行動を強化（事例検討 P-mSHILLによる分析） 2. ゼロレベルヒヤリハットの導入、実施 3. 転倒・転落インシデント防止行動、強化（環境状況のペアラウンドによるチェック）
ICT委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護単位でチェックリストによる注射準備室処置室環境整備・廃棄物分別・防護具の評価を実施した 2. 院内感染防止の視点をもった手指衛生の実践状況について、手洗いチェック、アルコールサージュージェル使用量測定を実施し、評価結果を委員会で共有し看護単位での院内感染防止の活動に活かせるようにした 3. 委員会で院内感染防止関連勉強会（知識・演習）10回開催、委員が知識・技術を習得することで職場内教育（新人看護師の教育支援など）に活用したり、職場の看護師指導に活かした
褥瘡対策委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. リンクナースは褥瘡対策マニュアルの活用を推進し褥瘡発生率低下に努めた 2. 皮膚排泄ケア認定看護師と連携・協力し患者へ適切なケアが行えるよう伝達、指導した（皮膚排泄ケア認定看護師による褥瘡リスク患者ラウンド・カンファレンスを1回/週に実施、カンファレンス実施基準の作成、実施後評価） 3. 医療関連機器圧迫創の発赤要因分析（発生状況に合わせ事例検討、勉強会開催）、委員会で伝達した褥瘡予防ケアスキルの向上を図る勉強会の内容を各看護で委員を中心に学習会をもちケアスキル向上を図った
実習指導者委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学生の実習受け入れ体制を整えた（学生アンケート、受け入れ評価表による評価・改善の内容は実習校連携会議などで報告し、情報共有、連携を図った） 2. 看護学生実習指導に関する学習会（4回）開催 3. 学校教員との連携を強化し効果的な実習指導ができるようにした
退院支援リンクナース会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 退院支援リンクナースが各看護単位の入院時スクリーニングシート、退院支援計画書作成状況の集計結果の報告を実施 2. 在宅療養指導マニュアル（痰の吸引、経腸栄養）を作成し、患者・家族指導に院内で統一のマニュアルを活用した

研究活動

(1) 院内発表

番号	題名	発表者(所属)	発表年月日
1	外来科学療法中の患者における緩和ケアスクリーニングの意義	井原亜沙子(外来)	2018年6月28日

(2) 院外発表

番号	題名	発表者(所属)	学会名等(場所)	発表年月日
1	看護師の勤務体制変更による脳血管疾患患者の転倒に関する考察	安田将(3西)	第16回国立病院看護研究会学術集会(広島)	2018年12月8日
2	外来科学療法室における緩和ケア介入の後方視的調査	井原亜沙子(外来)	第59回日本肺癌学会学術集会(東京)	2018年11月29日～12月1日
3	ICUにおける挿管患者へのせん妄ケアの現状～J-PADがトランを導入して～	脇実花(ICU)	第72回国立病院総合医学会(神戸)	2018年11月9・10日
4	緩和ケア病棟で最期を迎える患者の家族へのケア計画～リフレットを用いた家族ケアに着目して～	八丁明菜(1病棟)	第72回国立病院総合医学会(神戸)	2018年11月9・10日
5	退院調整看護師参加によるスムーズな在宅緩和ケアへの移行	野上智絵(地域連携室)	第72回国立病院総合医学会(神戸)	2018年11月9・10日
6	緩和ケアチーム活動の質の向上を図るための取り組み	村山朋美(緩和ケアチーム)	第23回日本緩和医療学会学術大会(神戸)	2018年6月15日
7	多職種チーム連携により意志決定支援を実践し在宅での最期を迎えられた一事例	野上智絵(地域連携室)	第23回日本緩和医療学会学術大会(神戸)	2018年6月15日
8	経腸栄養ポンプ使用に嘔吐症状の改善がみられ離床が可能となったくも膜下出血の一症例	中村真弓(3西病棟)	回復期リハビリテーション病棟協会第33回研究大会	2018年2月21・22日

3. 雑誌投稿・著書発刊

なし

研修参加状況

2) 院外参加状況

(1) 国立病院機構・国立高度専門医療研究センター

研修会名	主催	研修期間	参加人数
認定看護管理者教育課程サードレベル	国立病院機構本部	10月15日～26日 11月15日～30日 H31年1月16日～31日	1
評価者研修	国立病院機構本部	5月29日	1
病院経営戦略能力向上（階層別）研修Ⅰ	関東信越グループ	6月13日～15日	1
病院経営戦略能力向上（階層別）研修Ⅱ	関東信越グループ	6月11日～12日	1
中間管理職新任研修	関東信越グループ	7月18日～19日	2
第1回医療対話推進研修	関東信越グループ	11月16日	1
個人情報保護研修	関東信越グループ	7月20日	1
看護職員教育担当者研修	関東信越グループ	10月10日～11日	1
関信G内看護教員インターンシップ研修	関東信越グループ	9月19日、11月13日	3
認知症ケア研修	関東信越グループ	6月12日～13日	4
副看護師長新任研修（1回目）	関東信越グループ	6月27日～29日	2
医療安全対策研修Aコース	関東信越グループ	7月23日～25日	1
医療安全対策研修 補講		11月13日～14日	3
医療安全対策研修Cコース		1月22日～23日	4
病院看護師のための認知症対応向上研修会	N C 国立がんセンター東病院	8月3日～4日	1
看護師等実習指導者講習会	関東信越グループ	9月11日～10月6日（18） 10月23日～11月7日（12） 11月28日～12月13日（11）	2
看護師等実習指導者講習会 公開講座	関東信越グループ	11月29日、11月30日	2
退院調整看護師養成研修	関東信越グループ	9月3日～6日（フォローアップ12月19日）	1
災害看護研修	NHO災害医療センター	5月31日、6月1日、 8月31日	1
災害医療従事者研修Ⅰ	NHO災害医療センター	1月21日～23日	2
関東ブロックDMA T技能維持研修	東京都福祉保険局医療政策部	2月18日・19日	2
骨・運動器疾患看護研修	NHO村山医療センター	10月3日～5日	1
副看護師長新任研修(2回目)	関東信越グループ	10月2日～4日 H31年2月13日	3
第25回がん看護公開講座	N C 国立がんセンター中央病院	11月30日	6
がん看護研修会	N C 国立がんセンター東病院	11月9日～10日	2
		1月25日～26日	2

研修会名	主催	研修期間	参加人数
院内感染対策研修	関東信越グループ	1月18日	1
H I V 感染症研修	国立病院機構本部	1月24日～25日	1
新任評価者研修	国立病院機構本部	3月18日	2
労務管理（新任労務担当予定職員等）研修	国立病院機構本部	3月13日	1

（2）国立看護大学校関係

研修会名	主催	研修期間	参加人数
看護研究	国立看護大学校	8月29日～31日	3
認知症高齢者の看護	国立看護大学校	9月20日～22日	8
外国人受診者を対象とする看護マネジメント9月	国立看護大学校	9月4日～5日	2
外国人受診者を対象とする看護マネジメント10月	国立看護大学校	10月11日～12日	1
保健師助産師看護師実習指導者講習会	国立看護大学校	11月14日～12月21日(27日) 1月8日～1月25日(13日)	2

（3）その他（東京都・看護協会など）

研修会名	主催	研修期間	参加人数
看護認知症対応力向上研修1	北多摩北部保健医療圏 薫風 会山田病院認知症疾患医療セ ンター	11月8日	1
平成30年度がんのリハビリテーション研修	一般財団法人ライフ・プラン ニング・センター	1月26日～27日	1
看護補助者の活用推進のための看護管理者研修	東京都看護協会	7月5日	1
平成30年度（第9回）新人看護職教育担当者研修	労働者健康安全機構	6月4日～6日	1
災害支援ナース登録者の「更新研修Ⅰ」	東京都看護協会	7月27日	1
結核研修 最新情報集中コース	結核予防会	11月15日～16日	1
第19回ELNEC-Jコアカリキュラム指導者養成プログラム	日本緩和医療学会	2月17～18日	1
認定看護管理者教育「セカンドレベル」	国際医療福祉大学 看護生涯学習センター	9月21日～3月2日	1

看護学生・研修生受け入れ状況

1. 平成30年度実習受け入れ状況

1) 看護学生受入状況

(1) 目白大学看護学部看護学科

1年次50名 基礎看護学実習Ⅰ（日常生活援助・フィジカルアセスメント）
(H30.9.10～9.14)

実習場所：3西病棟（1クールのみ）・4西病棟・5東病棟・5西病棟・6東病棟

2年次 41名 基礎看護学実習Ⅱ（H31.2.4～3.1）

実習場所：2病棟・4西病棟・5東病棟（2クールのみ）・5西病棟・6東病棟

3年次 57名 老年・在宅看護学Ⅰ（H30.6.4～11.30）

実習場所：2病棟・3西病棟・5西病棟

3年次 24名 成人看護学Ⅰ 急性期（H30.7.2～12.24）

実習場所：4東病棟

3年次 93名・4年次 2名（計95名）成人看護学Ⅱ（H30.6.11～12.14）

実習場所：2病棟・3西病棟・4東病棟・5東病棟・5西病棟・6東病棟・6西病棟

4年次 38名 統合看護実習（H30.5.14～5.16, H30.8.28～8.30）

実習場所：1病棟・2病棟・3西病棟・4東病棟・4西病棟・5東病棟
・5西病棟・6東病棟・6西病棟・ICU

(2) 国立療養所多磨全生園附属看護学校

1学年 20名 成人看護学実習（H31.1.9～1.25、H31.2.14～3.1）

実習場所：4東病棟・3西病棟・手術室・ICU

2学年 18名 統合実習（H30.10.23～12.1）

実習場所：5東病棟・3西病棟

(3) 東京医療保健大学

3学年 69名 成人看護学実習Ⅱ（慢性期）（H30.9.3～H31.2.22）

実習場所：2病棟・3西・4西病棟・6西病棟・5西病棟

4学年 7名 看護学統合実習（臨床看護学コース7名）

（H30.7.17～7.27）

実習場所：3西病棟・4西病棟

*高度実践看護コース 2年次 5名

2) 研修生受入状況

(1) 国立病院機構関東信越グループ

平成30年度看護師等実習指導者講習会における実習 3名（H30.10.3～10.5）

実習場所：6東病棟

(2) 埼玉県立大学

平成30年度認定看護師教育課程実習（緩和ケア） 2名（H31.1.8～2.8）

(3) 東京都委託事業（東久留米白十字訪問看護ステーション）

東京都訪問看護教育ステーション事業「医療機関等における訪問看護師への研修」

緩和ケア・退院支援コース

11月28日～2月21日（研修2日間）9名

実習場所：緩和ケア病棟

皮膚排泄ケア・退院支援コース

12月18日～3月13日（研修2日間）8名

実習場所：全病棟

2. 海外研修受け入れ状況

該当なし